

農業関係

1 農業構造

(1) 農家数

ア 総農家数

(ア) 本県の総農家数は 10 万 4,423 戸

平成 17 年 2 月 1 日現在の本県の総農家数は 10 万 4,423 戸で、昭和 35 年のピーク (17 万 1,176 戸) 以来、減少傾向が続いています。平成 17 年の総農家数の内訳をみると、販売農家数は 8 万 597 戸 (総農家数に占める割合 77.2%)、自給的農家は 2 万 3,826 戸 (同 22.8%) となっています。

総世帯に占める農家の割合 (農家率) は、平成 12 年に比較して 1.5 ポイント低下し、14.7% となっています (平成 17 年 10 月 1 日現在の福島県総世帯数 70 万 9,644 戸)。

また、平成 17 年 2 月 1 日現在の農業経営体数は 81,791 経営体で、そのうち家族経営が 80,849 経営体となっています。

農家 {
 販売農家：経営耕地面積が 30a 以上、または調査期日前 1 年間の農産物販売金額が 50 万円以上の農家
 自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満で、かつ調査期日前 1 年間の農産物販売額が 50 万円未満の農家
 調査日現在の経営耕地面積が 10a 以上の農業を営む世帯、または経営耕地面積が 10a 未満であっても、調査期日前 1 年間の農産物販売金額が 15 万円以上あった世帯 (例外規定農家)

農林業経営体：農林産物の生産を行うか又は委託を受けて農林作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、次の規定のいずれかに該当する事業を行うもの

農業経営体：1) 経営耕地面積が 30a 以上の規模の農業

2) 下記外形基準以上の規模の農業

露地野菜作付面積	15 a
施設野菜栽培面積	350 m ²
果樹栽培面積	10 a
露地花き栽培面積	10 a
施設花き栽培面積	250 m ²
搾乳牛飼養頭数	1 頭
肥育牛飼養頭数	1 頭
豚飼養頭数	15 頭
採卵鶏飼養羽数	150 羽
ブロイラー年間出荷羽数	1,000 羽
その他	調査期日前 1 年間の農産物の総販売額 50 万円に相当する事業の規模

3) 農作業の受託の事業

うち家族経営：農業経営体のうち、個人経営体 (農家) 及び法人経営のうち 1 戸 1 法人のもの
 農業経営体のうち家族経営と販売農家は同一ではありません。

本県の総農家数の推移

(単位：戸、%)

	総農家数			農家率	(参考) 総世帯数
		販売農家	自給的農家		
昭60	138,477	120,367	18,110	24.1	574,968
平2	129,744	111,268	18,476	21.4	606,936
7	119,896	100,889	19,007	18.3	653,814
12	111,219	91,660	19,559	16.2	687,828
17	104,423	80,597	23,826	14.7	709,644
	農業経営体数				
		うち家族経営			
平17	81,791	80,849			

(資料：農林水産省「農林業センサス」、総務省：「国勢調査」)

(イ) 全国の総農家数は 284 万 8,166 戸、東北地方の総農家数は 46 万 3,460 戸

平成 17 年 2 月 1 日現在の全国の総農家数は 284 万 8,166 戸、東北地方の総農家数は 46 万 3,460 戸となっており、いずれも平成 12 年と比較して減少しています。

東北各県を比較すると、総農家数は本県が東北地方で最も多い、10 万 4,423 戸となっており、次いで、岩手県が 8 万 6,028 戸、宮城県が 7 万 7,855 戸となっています。一方、総農家数に占める販売農家の割合をみると、秋田県が最も高い 83.8%、青森県が 82.5%、宮城県が 80.6%となっており、本県は 77.2%で最も低くなっています。

全国・東北各県の農家数

(単位：戸、%)

	実数(平成17)			増減率(平成17/平成12)			構成比(総農家=100)	
	総農家	販売農家	自給的農家	総農家	販売農家	自給的農家	販売農家	自給的農家
全国	2,848,166	1,963,424	884,742	-8.7	-16.0	12.9	68.9	31.1
東北	463,460	370,786	92,674	-8.6	-12.9	13.8	80.0	20.0
青森	61,587	50,790	10,797	-12.4	-15.3	4.8	82.5	17.5
岩手	86,028	67,330	18,698	-6.9	-11.3	13.3	78.3	21.7
宮城	77,855	62,731	15,124	-8.4	-12.1	11.1	80.6	19.4
秋田	72,000	60,325	11,675	-10.6	-13.9	11.0	83.8	16.2
山形	61,567	49,013	12,554	-8.9	-13.5	14.9	79.6	20.4
福島	104,423	80,597	23,826	-6.1	-12.1	21.8	77.2	22.8

(資料：農林水産省「農林業センサス」)

イ 主副業別・専兼別農家数(販売農家)

(ア) 本県の主業農家は全体の 17.7%

平成 17 年 2 月 1 日現在の主業農家数(販売農家)は 1 万 4,287 戸で、販売農家の 17.7%を占めています。

また、準主業農家数は 2 万 4,761 戸で 30.7%、副業的農家数は 4 万 1,549 戸で 51.6%となっています。

本県の主業・副業別農家数の推移

(単位：戸、%)

	計	主業農家		準主業農家		副業的農家
			うち 65 歳未満の農業専従者がいる		うち 65 歳未満の農業専従者がいる	
平2	111,268 (100)	28,167 (25.3)	25,233 (22.7)	48,165 (43.3)	22,880 (20.6)	34,936 (31.4)
7	100,889 (100)	22,048 (21.9)	18,294 (18.1)	35,102 (34.8)	10,333 (10.2)	43,739 (43.4)
12	91,660 (100)	15,919 (17.4)	13,577 (14.8)	31,197 (34.0)	9,694 (10.6)	44,544 (48.6)
17	80,597 (100)	14,287 (17.7)	11,866 (14.7)	24,761 (30.7)	7,457 (9.3)	41,549 (51.6)

(資料：農林水産省「農林業センサス」)

()内の数値は構成比を示す。

主業農家：農業所得が主(農家所得の 50%以上が農業所得)で、65 歳未満の農業従事 60 日以上の子帯員がいる農家

準主業農家：農外所得が主(農家所得の 50%未満が農業所得)で、65 歳未満の農業従事 60 日以上の子帯員がいる農家

副業的農家：65 歳未満の農業従事 60 日以上の子帯員がいない農家

(イ) 本県の専業農家は全体の 13.7%

平成 17 年 2 月 1 日現在の販売農家のうち専業農家数は 1 万 1,079 戸で、販売農家の 13.7% を占めています。

また、第 1 種兼業農家数は 1 万 2,133 戸で 15.1%、第 2 種兼業農家数は 5 万 7,385 戸で 71.2% をそれぞれ占めています。

本県の専業・兼業別農家数の推移

(単位：戸、%)

		販売農家数	専業農家数	男子生産年齢	女子生産年齢	第 1 種 兼業農家	第 2 種 兼業農家
				人口がいる	人口がいる		
実 数	平2	111,268	10,124	7,150	-	21,442	79,702
	7	100,889	8,816	5,180	-	18,899	73,174
	12	91,660	9,533	4,521	-	13,230	68,897
	17	80,597	11,079	4,666	4,305	12,133	57,385
構 成 比	平2	100.0	9.1	/	/	19.3	71.6
	7	100.0	8.7	/	/	18.7	72.5
	12	100.0	10.4	/	/	14.4	75.2
	17	100.0	13.7	/	/	15.1	71.2

(資料：農林水産省「農林業センサス」)

専業農家：世帯員の中に兼業従事者が 1 人もいない農家

第 1 種兼業農家：農業所得を主とする兼業農家

第 2 種兼業農家：農業所得を従とする兼業農家

ウ 経営耕地規模別農家数 (販売農家)

本県の経営耕地 3.0ha 以上の農家数は全体の 9.7%

平成 17 年 2 月 1 日現在の販売農家における経営耕地規模別農家数の構成比は 1.0ha 未満が 47.8%、1.0~3.0ha が 42.5%、3.0ha 以上が 9.7% (うち 5.0ha 以上 3.1%) となっており、3.0ha 以上の農家割合は増加傾向にあります、東北 (15.0%) と比較すると低い状況です。

経営耕地規模別農家数 (販売農家)

(単位：戸、%)

			販売農家総数	0.5ha未満	0.5~1.0	1.0~3.0	3.0~5.0	5ha以上
			実 数	福 島 県	平2	111,268	17,309	33,604
7	100,889	16,776			31,608	44,544	6,141	1,820
12	91,660	15,243			29,234	39,186	5,783	2,214
17	80,597	12,868			25,646	34,284	5,340	2,459
東 北	平2	520,664		78,433	145,155	240,745	43,749	12,582
	7	473,193		71,127	131,456	212,583	41,953	16,074
	12	425,622		62,038	118,160	187,824	38,767	18,833
	17	370,786		52,066	100,471	162,626	34,950	20,673
都 府 県	平2	2,883,823		704,343	1,048,608	1,004,800	99,654	26,418
	7	2,577,815		632,553	924,870	883,314	101,402	35,676
	12	2,274,298		545,345	813,124	773,356	99,035	43,438
	17	1,911,434		436,327	673,102	657,831	93,750	50,424
構 成 比	福 島 県	平2	100.0	15.6	30.2	47.0	6.0	1.3
		7	100.0	16.6	31.3	44.2	6.1	1.8
		12	100.0	16.6	31.9	42.8	6.3	2.4
		17	100.0	16.0	31.8	42.5	6.6	3.1
	東 北	平2	100.0	15.1	27.9	46.2	8.4	2.4
		7	100.0	15.0	27.8	44.9	8.9	3.4
		12	100.0	14.6	27.8	44.1	9.1	4.4
		17	100.0	14.0	27.1	43.9	9.4	5.6
	都 府 県	平2	100.0	24.4	36.4	34.8	3.5	0.9
		7	100.0	24.5	35.9	34.3	3.9	1.4
		12	100.0	24.0	35.8	34.0	4.4	1.9
		17	100.0	22.8	35.2	34.4	4.9	2.6

(資料：農林水産省「農林業センサス」)

工 農産物販売金額規模別農家数（販売農家）

本県の農産物販売金額 1,000 万円以上の農家数は 2,702 戸、全体の 3.4%

平成 17 年 2 月 1 日現在の農産物販売金額規模別農家数（販売農家）は、50 万円未満が 30,402 戸（構成比 37.7%）、50～300 万円が 36,147 戸（同 44.8%）、300～700 万円が 9,024 戸（同 11.2%）、700～1,000 万円が 2,322 戸（同 2.9%）、1,000 万円以上が 2,702 戸（同 3.4%）となっています。

本県の農産物販売金額規模別農家数（販売農家）

（単位：戸、％）

			販売農家総数	50万円未満	50～300	300～700	700～1,000	1,000万円以上
実数	福島県	平 2	111,268	35,815	56,594	14,959	2,050	1,850
		7	100,889	32,370	49,012	14,206	2,659	2,642
		12	91,660	34,325	42,464	9,881	2,422	2,568
		17	80,597	30,402	36,147	9,024	2,322	2,702
	東北	平 2	520,664	128,327	279,106	88,336	13,163	11,732
		7	473,193	110,355	241,355	87,888	16,871	16,724
		12	425,622	123,778	215,446	59,037	12,798	14,563
		17	370,786	113,620	178,851	50,138	12,370	15,807
	全国	平 2	2,970,527	1,054,921	1,356,800	341,338	84,307	133,161
		7	2,651,403	909,470	1,176,282	314,925	86,427	164,299
		12	2,336,909	933,238	946,571	234,578	74,783	147,739
		17	1,963,424	784,924	766,065	203,661	64,496	144,278
構成比	福島県	平 2	100.0	32.2	50.9	13.4	1.8	1.7
		7	100.0	32.1	48.6	14.1	2.6	2.6
		12	100.0	37.4	46.3	10.8	2.6	2.8
		17	100.0	37.7	44.8	11.2	2.9	3.4
	東北	平 2	100.0	24.6	53.6	17.0	2.5	2.3
		7	100.0	23.3	51.0	18.6	3.6	3.5
		12	100.0	29.1	50.6	13.9	3.0	3.4
		17	100.0	30.6	48.2	13.5	3.3	4.3
	全国	平 2	100.0	35.5	45.7	11.5	2.8	4.5
		7	100.0	34.3	44.4	11.9	3.3	6.2
		12	100.0	39.9	40.5	10.0	3.2	6.3
		17	100.0	40.0	39.0	10.4	3.3	7.3

（資料：農林水産省「農林業センサス」）

オ 農産物販売金額第 1 位部門別農家数（販売農家）

本県では、稲作部門が第 1 位の農家数が最も多い

平成 17 年 2 月 1 日現在の農産物販売金額第 1 位の部門別農家数（販売農家）は、稲作が 5 万 1,980 戸と最も多く、次いで、果樹類の 5,520 戸、露地野菜 4,501 戸、施設野菜 2,292 戸の順となっています。

平成 7 年からの部門別農家数の構成比の推移をみると、稲作の農家割合が減少傾向である一方、露地野菜、施設野菜、花き・花木、果樹類、肉用牛の農家割合は増加傾向となっています。

本県の農産物販売金額第 1 位の部門別農家数

（単位：戸、％）

		計	稲作	麦類・雑穀・いも類・豆類	工芸農作物	露地野菜	施設野菜	花き・花木	果樹類	酪農	肉用牛	その他
平	実数	93,135	69,298	1,123	3,470	4,031	2,478	1,154	6,406	1,027	2,281	1,867
7	構成比	100.0	74.4	1.2	3.7	4.3	2.7	1.2	6.9	1.1	2.4	2.0
平	実数	83,447	61,888	647	2,486	4,625	2,435	1,156	6,225	791	2,221	973
12	構成比	100.0	74.2	0.8	3.0	5.5	2.9	1.4	7.5	0.9	2.7	1.2
平	実数	71,248	51,980	563	1,851	4,501	2,292	997	5,520	631	2,253	660
17	構成比	100.0	73.0	0.8	2.6	6.3	3.2	1.4	7.7	0.9	3.2	0.9
増減率 (平17/平12)		-14.6	-16.0	-13.0	-25.5	-2.7	-5.9	-13.8	-11.3	-20.2	1.4	-32.2

（資料：農林水産省「農林業センサス」）

(2) 農家人口と就業構造

ア 農家人口(販売農家)

本県の農家人口は37万8,211人

平成17年2月1日現在の農家人口(販売農家)は37万8,211人で、5年間で74,207人(16%)減少しています。また、農家人口のうち65歳以上の人数は113,283人で全体の30.0%を占めており、構成比は5年間で3.2%増加しています。

本県の年齢別農家人口(販売農家)

(単位:人、%)

		計	0~14歳	15~29歳	30~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上
実数	平2	572,183	115,098	85,373	141,230	77,771	47,328	105,383
	7	505,795	87,001	74,738	130,813	56,570	40,258	116,415
	12	452,418	66,944	74,157	109,371	50,971	29,812	121,163
	17	378,211	45,627	61,897	79,291	56,958	21,155	113,283
構成比	平2	100.0	20.1	14.9	24.7	13.6	8.3	18.4
	7	100.0	17.2	14.8	25.9	11.2	8.0	23.0
	12	100.0	14.8	16.4	24.2	11.3	6.6	26.8
	17	100.0	12.1	16.4	21.0	15.1	5.6	30.0

(資料:農林水産省「農林業センサス」)

農家人口:農家に常時居住し、しかも生活の本拠をそこに持つ世帯員。原則として住居と生計を共にしている者

イ 農業就業人口(販売農家)

本県の農業就業人口は13万5,010人

平成17年2月1日現在の農業就業人口(販売農家)は13万5,010人となり、5年間で12,491人(9%)減少しています。また、農業就業人口のうち、65歳以上の人数は8万1,787人で全体の60.6%を占めています。

本県の年齢別農業就業人口(15歳以上・販売農家)

(単位:人、%)

		計	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上
実数	平7	148,780	3,423	2,581	8,569	15,639	26,353	27,200	65,015
	12	147,501	5,487	3,170	5,672	12,704	19,038	20,408	81,022
	17	135,010	4,583	3,170	3,532	8,044	19,215	14,679	81,787
構成比	平7	100	2.3	1.7	5.8	10.5	17.7	18.3	43.7
	12	100	3.7	2.1	3.8	8.6	12.9	13.8	54.9
	17	100	3.4	2.3	2.6	6.0	14.2	10.9	60.6

(資料:農林水産省「農林業センサス」)

農業就業人口:15歳以上の世帯員のうち、自営農業のみに従事した者及び農業とその他の仕事に従事した者のうち、農業が主の者

ウ 基幹的農業従事者数(販売農家)

本県の基幹的農業従事者数は8万9,377人

平成17年2月1日現在の基幹的農業従事者数(販売農家)は8万9,377人となり、5年間で263人(0.3%)増加しています。また、基幹的農業従事者数のうち、65歳以上の人数は5万3,397人で全体の59.7%を占めています。

本県の基幹的農業従事者数(15歳以上・販売農家)

(単位:人、%)

		計	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上
実数	平7	89,499	25	618	4,582	12,711	19,952	18,524	33,087
	12	89,114	34	650	2,301	9,569	15,054	15,109	46,397
	17	89,377	32	852	1,623	5,816	15,722	11,935	53,397
構成比	平7	100	0.0	0.7	5.1	14.2	22.3	20.7	37.0
	12	100	0.0	0.7	2.6	10.7	16.9	17.0	52.1
	17	100	0.0	1.0	1.8	6.5	17.6	13.4	59.7

(資料:農林水産省「農林業センサス」)

基幹的農業従事者:農業就業人口のうち、ふだん仕事を主に農業に従事している者

(3) 農地

ア 耕地面積

本県の平成 21 年 7 月 15 日現在の耕地面積は 15 万 300ha

平成 21 年 7 月 15 日現在の耕地面積は 15 万 300ha で、前年に比べて 700ha (0.5%) 減少しています。

このうち、田は 400ha (0.4%) 減少し 10 万 5,500ha、畑は 300ha (0.7%) 減少し 4 万 4,800ha となっています。

主な減少要因は、耕作放棄、宅地・道路等への転用等のかい廃によるものとなっています。

本県の耕地面積の推移

(単位: ha)

	昭60	平2	7	12	15	16	17	18	19	20	21
耕地面積計	192,800	183,300	168,700	158,500	155,300	154,000	153,200	152,600	151,800	151,000	150,300
田	119,600	116,300	114,100	111,300	109,600	108,500	107,400	106,900	106,400	105,900	105,500
畑	73,200	67,000	54,600	47,200	45,600	45,500	45,800	45,800	45,500	45,100	44,800
普通畑	38,400	37,300	35,800	33,000	32,200	32,200	32,400	32,400	32,200	32,100	31,900
樹園地	26,800	22,200	12,400	8,320	7,790	7,790	7,770	7,710	7,550	7,460	7,370
牧草地	8,020	7,480	6,450	5,850	5,620	5,600	5,660	5,690	5,660	5,630	5,610

ラウンドのため、合計値が合わないことがある。

本県の耕地の拡張・かい廃面積(田畑計)

(単位: ha)

	拡張			かい廃		
	計	開墾	干拓・埋立て・復旧	計	自然災害	人為的
昭60	295	295	0	897	1	896
平2	169	83	86	2,576	103	2,473
7	23	23	-	4,230	-	4,230
12	19	19	-	1,526	-	1,526
15	114	114	-	996	-	996
16	50	50	-	944	-	944
17	16	16	0	1,058	0	1,058
18	48	48	-	577	-	577
19	63	63	-	895	-	895
20	4	3	1	805	-	805
21	14	14	-	694	-	694

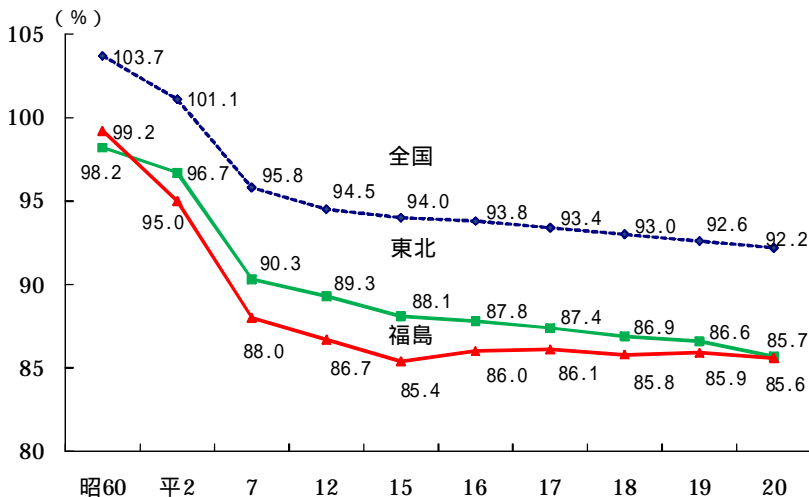
(資料: 農林水産省「耕地及び作付面積統計」)

イ 耕地利用率

本県の平成 20 年の耕地利用率は田畑計で 85.6%と前年より 0.3 ポイント減少

平成 20 年の耕地利用率は、田畑計で 0.3 ポイント減少し、85.6%となっており、全国(92.2%)及び東北(85.7%)の耕地利用率と比べて、本県は低く、全国 34 位となっています。

耕地利用率の推移



(資料: 農林水産省「農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率」)

ウ 農用地の整備

本県の平成 20 年度の整備済耕地面積は田畑計で 8 万 9,360ha、耕地整備率は 59%

平成 20 年度の整備済耕地面積は、田畑計で 8 万 9,360ha となり、整備率は 59%となっています。

このうち、田の整備済面積は 7 万 2,673ha で整備率は 69%、畑の整備済面積は 1 万 6,687ha で整備率は 37%となっています。また、近年、稲作経営の体質強化を推進するため、積極的に整備を進めている大区画ほ場（1ha 以上の田）は 2,703ha に達しています。

本県の農地の整備状況

(単位：ha、%)

	昭60	平2	7	12	15	16	17	18	19	20
整備済耕地面積 〔耕地の整備率〕	60,938 〔32〕	71,481 〔39〕	82,180 〔51〕	86,847 〔55〕	88,024 〔57〕	88,409 〔57〕	88,734 〔58〕	88,937 〔58〕	89,150 〔59〕	89,360 〔59〕
整備済田面積 〔田の整備率〕	52,096 〔44〕	60,941 〔52〕	65,998 〔58〕	70,316 〔63〕	71,392 〔65〕	71,762 〔66〕	72,073 〔67〕	72,261 〔68〕	72,473 〔68〕	72,673 〔69〕
(うち大区画(1ha以上))	-	-	-	2,126	2,422	2,516	2,585	2,610	2,660	2,703
整備済畑面積 〔畑の整備率〕	8,842 〔12〕	10,540 〔16〕	16,182 〔30〕	16,531 〔35〕	16,632 〔36〕	16,648 〔37〕	16,660 〔36〕	16,673 〔36〕	16,677 〔37〕	16,687 〔37〕
農地造成面積	5,861	6,486	6,650	6,661	6,661	6,661	6,661	6,661	6,661	6,661

整備済面積は新制度（昭和 38 年度ほ場整備事業が創設されてから実施されたもの）によるものを集計ラウンドのため、合計値が合わないことがある。

本県の地域別ほ場整備状況（平成 20 年度末現在）

(単位：ha、%)

地方別	農林事務所	田			畑		
		田面積	整備済面積	整備率	畑面積	整備済面積	整備率
中通り	県北	12,981	8,089	62.3	12,782	2,889	22.6
	県中	27,216	15,365	56.5	11,621	5,397	46.4
	県南	12,184	8,073	66.3	5,578	1,877	33.7
会津	会津	25,858	24,355	94.2	5,499	3,496	63.6
	南会津	2,727	2,556	93.7	1,208	944	78.1
浜通り	相双	18,429	11,838	64.2	6,157	1,775	28.8
	いわき	6,490	2,556	39.4	2,310	309	13.4
県計		105,900	72,673	68.6	45,100	16,687	37.0

整備済面積は新制度（昭和 38 年度ほ場整備事業が創設されてから実施されたもの）によるものを集計ラウンドのため、合計値が合わないことがある。

エ うつくしま農村整備プラン 2 1 の推進

- 福島県第 5 次土地改良長期計画 -

福島県第 5 次土地改良長期計画の目標・進捗度

期間 〔 目標：平成 13 年度～平成 22 年度
実績：平成 20 年度

(単位：億円)

基本方針	重点施策	期間内整備目標		平成20年度末実績		進捗率(%)	
		事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費
1. 農業の担い手を支援する生産基盤の整備	安定的な農業用水の確保	183km	1,352	88.6km	723	48.4	53.5
	優良農地の確保・整備		1,604		572		35.7
	(1) 水田(標準区画)	7,500ha		2,357ha		31.4	
	(2) 大区画(1ha以上)	7,600ha		577ha		7.6	
	(3) 畑	700ha		156ha		22.3	
	農道の整備	1,160km	1,727	460.5km	610	39.7	35.3
2. 快適な生活空間をはぐくむ居住空間の整備	農業集落排水処理施設の整備	87,000人	1,811	54860	647	63.1	35.7
	総合的な農村環境の整備	32地区	512	23地区	188	71.9	36.7
3. 元気な山里をつくるふれあい空間の整備	中山間地域の整備	29地区	446	20地区	154	69.0	34.5
	水辺環境の整備	30地区	85	12地区	19	40.0	22.3
4. 水とみどりを守るやさらぎ空間の整備	地域資源循環施設の整備	7地区	25	2地区	10	28.6	40.0
	農業水利施設の適正管理と管理体制の強化	1,106地区	127	830地区	101	75.0	79.5
	5. 災害から県民の生活を守る防災・保全施設の整備	農地災害等の未然防止	164地区	249	78地区	90	47.6
	農地の保全	12地区	61	9地区	14	75.0	23.0
合計(億円)			8,000		3,128		39.1

農業集落排水事業は、福島県全域下水道化構想の見直し（H.16）に合わせた進行管理とする。

平成 20 年度単年度の進捗率は、事業費ベースで 2.8%となっています。

(ア) ほ場整備事業

水 田 - 整備対象面積 105,900ha トータル整備済面積 72,673ha (整備率 68.6%)
 大区画 - 整備対象面積 39,400ha トータル整備済面積 2,703ha (整備率 6.9%)
 畑 - 整備対象面積 45,100ha トータル整備済面積 16,687ha (整備率 37.0%)

(イ) 農道整備事業 (集落道含む)

農 道 - 整備対象延長 13,289km トータル整備済延長 5,381km (整備率 40.5%)

(ウ) 農業集落排水事業

農集排 - 整備対象人口 211,481 人 トータル整備済人口 132,657 人 (整備率 62.7%)

オ 耕作放棄地

本県の平成 17 年 2 月 1 日現在の耕作放棄地は 2 万 1,708ha、平成 12 年と比べ 7.7%増加

平成 17 年 2 月 1 日現在の耕作放棄地は 2 万 1,708ha で、平成 12 年と比較して 1,548ha (7.7%) 増加しています。

販売農家の持つ耕作放棄地を地目別で見ると、畑が最も多く、6,796ha (55.2%) で半数以上を占めています。

耕作放棄地：以前耕地であったもので、過去 1 年間に以上作物を栽培せず、しかも、この数年の間に再び耕作するはっきりとした考えのない土地

本県の耕作放棄地面積の推移

(単位：ha、%)

		計	農 家		土地持ち	
			販売農家	自給的農家	非 農 家	非 農 家
実数	平2	9,022	7,669	6,424	1,245	1,353
	7	14,888	12,353	10,374	1,979	2,535
	12	20,160	15,651	13,150	2,501	4,509
	17	21,708	16,141	12,313	3,828	5,567
増減率	7年 / 2年	65.0	61.1	61.5	59.0	87.4
	12年 / 7年	35.4	26.7	26.8	26.4	77.9
	17年 / 12年	7.7	3.1	-6.4	53.1	23.5

(資料：農林水産省「農林業センサス」)

農 家：経営耕地面積が 10a 以上の農業を営む世帯又は調査期日前 1 年間ににおける農産物販売金額が 15 万円以上の農業を行う世帯

土地持ち非農家：農家以外で耕地及び耕作放棄地を 5a 以上所有している世帯

本県の地目別耕作放棄地面積の推移 (販売農家)

(単位：戸、ha)

		計							
		農 家 数		面 積		農 家 数		面 積	
		農 家 数	面 積	農 家 数	面 積	農 家 数	面 積	農 家 数	面 積
実数	平2	23,338	6,424	9,586	1,450	15,248	3,848	3,377	1,126
	7	27,771	10,374	12,141	2,025	17,392	5,193	6,262	3,156
	12	35,638	13,150	18,061	3,531	23,884	7,546	3,808	2,073
	17	33,376	12,313	19,601	4,266	21,361	6,796	2,545	1,252
増減率	7年 / 2年	19.0	61.5	26.7	39.7	14.1	35.0	85.4	180.3
	12年 / 7年	28.3	26.8	48.8	74.4	37.3	45.3	-39.2	-34.3
	17年 / 12年	-6.3	-6.4	8.5	20.8	-10.6	-9.9	-33.2	-39.6
1戸当たり	平2		0.28		0.15		0.25		0.33
	7		0.37		0.17		0.30		0.50
	12		0.37		0.20		0.32		0.54
	17		0.37		0.22		0.32		0.49

(資料：農林水産省「農林業センサス」)

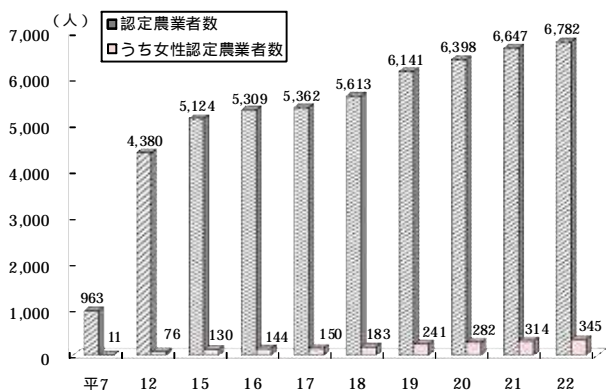
農家数は、販売農家のうち実際に耕作放棄地を持つ農家数

農家数の計は、一戸の農家が複数の地目を有している場合があることから、田、畑、樹園地それぞれの実農家数の計と合わない。

(4) 認定農業者

本県の平成 22 年 3 月末現在の認定農業者数は 6,782 経営体（うち農業法人は 304、女性認定農業者数は 345）
 県では、農業経営基盤強化促進法に基づいて、効率的かつ安定的な農業経営者を育成し、これらの農業経営者が農業生産の相当部分を担うような農業構造の確立を目指しています。
 平成 22 年 3 月末現在の認定農業者は 6,782 経営体で、このうち、農業法人は 304 経営体、女性認定農業者数は 345 経営体となっています。

本県の認定農業者数の推移



各地方別認定農業者（平成 22 年 3 月末現在）

地方名	市町村数	認定農業者数 (経営体)	うち法人
県北	8	1,954	57
県中	12	1,194	56
県南	9	596	47
会津	13	1,561	48
南会津	3	225	13
相双	12	1,024	51
いわき	1	228	32
県計	58	6,782	304

(県農業担い手課調べ)

(5) 農業生産法人

本県の平成 22 年 1 月 1 日現在の農業生産法人は 270 法人
 平成 18 年 5 月 1 日の会社法施行により、株式会社と有限会社がひとつの会社類型（株式会社）に統合され、それまでの有限会社は株式会社（特例有限会社）となりました。この会社法施行を受けて、特例有限会社を除く株式会社が増加しています。
 平成 22 年 1 月 1 日現在の農業生産法人は 270 法人で、経営種別では米麦作が 84 法人と最も多く、次いで野菜 66 法人、畜産 49 法人の順となっています。

本県の農業生産法人数の推移（各年 1 月 1 日現在）

	平7	12	15	16	17	18	19	20	21	22
農業生産法人数	71	137	168	176	186	197	221	249	266	270
農事組合法人	29	36	34	31	31	31	30	32	32	33
株式会社	-	-	0	0	0	1	190	215	232	235
（特例有限会社を除く）	-	-	-	-	-	-	7	25	42	48
（特例有限会社）	-	-	-	-	-	-	183	190	190	187
有限会社	42	100	133	144	154	164	-	-	-	-
合名・合資会社	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合同会社	-	-	-	-	-	-	0	1	1	1
参考：東北	455	732	842	899	956	1,048	1,132	1,272	1,324	
参考：全国	-	-	6,953	7,383	7,904	8,412	9,466	10,519	11,064	

(県農地調整室調べ)

農業生産法人の方部別・経営種別・形態別内訳（H22.1.1 現在）

	米麦作	畜産	果樹	野菜	花き 花木	その他	計	農事 組合法人	株式会社 (特例有限 会社を除く)	株式会社 (特例有限 会社)	合名 会社	合資 会社	合同 会社
県北	11	13	10	4	10	3	51	4	10	36	0	1	0
県中	17	14	0	17	10	3	61	4	9	48	0	0	0
県南	7	7	1	19	5	3	42	5	5	32	0	0	0
会津	34	1	1	1	4	3	44	7	14	23	0	0	0
南会津	5	2	0	4	1	2	14	0	1	13	0	0	0
相双	7	9	2	9	6	4	37	9	3	25	0	0	0
いわき	3	3	0	12	3	0	21	4	6	10	0	0	1
合計	84	49	14	66	39	18	270	33	48	187	0	1	1

(県農地調整室調べ)

(6) 農地の利用集積

本県の平成 21 年 3 月末現在の農用地利用集積面積は 5 万 7,243ha

平成 21 年 3 月末現在の農用地利用集積面積は 5 万 7,243ha で、前年と比べて 1,773ha 増加しています。

また、認定農業者に対する農用地利用集積面積は 3 万 7,991ha で、前年と比べて 2,064ha 増加しています。

本県の農用地利用集積面積の年度別実績

(単位：経営体(団体) ha)

	合 計					認 定 農 業 者					特定農業団体		
	経営体数 (団体数)	農用地利用集積面積				経営体数	農用地利用集積面積				団体数	農用地利用集積面積	
		計	自己所有	借入地	作業受託		計	自己所有	借入地	作業受託		計	作業受託
平17年3月末	9,818	47,438	26,403	10,987	10,048	5,362	29,348	14,904	8,159	6,285			
18年3月末	10,216	49,223	27,554	11,528	10,141	5,613	30,936	15,663	8,830	6,443			
19年3月末	10,761	53,018	29,421	12,658	10,939	6,142	33,942	17,130	9,867	6,945	23	515	515
20年3月末	11,013	55,470	30,063	13,959	11,448	6,398	35,928	17,880	11,111	6,937	41	988	988
21年3月末	11,292	57,243	30,338	15,125	11,780	6,647	37,991	18,336	12,413	7,242	42	1,070	1,070

	基本構想水準到達農業者					今後育成すべき農業者				
	経営体数	農用地利用集積面積				経営体数	農用地利用集積面積			
		計	自己所有	借入地	作業受託		計	自己所有	借入地	作業受託
平17年3月末	444	2,051	1,441	333	277	4,012	16,039	10,058	2,495	3,486
18年3月末	435	2,136	1,507	375	254	4,168	16,151	10,384	2,323	3,444
19年3月末	371	1,742	1,256	317	169	4,225	16,819	11,035	2,474	3,310
20年3月末	382	1,820	1,356	337	128	4,192	16,735	10,828	2,512	3,396
21年3月末	395	1,912	1,383	388	142	4,208	16,270	10,619	2,324	3,326

ラウンドのため、合計値が合わないことがある。

(県農業担い手課調べ)

(7) 農作業を受託した経営体

本県の農作業受託経営体数は 6,619 経営体

平成 17 年 2 月 1 日現在の農作業を受託した経営体数は 6,619 経営体で、このうち、水稲作作業を請け負った経営体は、6,411 経営体となっています。

本県の農作業を受託した経営体数 (単位：経営体)

よその農作業を受託した経営体		
実経営体数	耕種部門の作業を受託した経営体数	
	水稲作	
6,619	6,571	
	6,411	

(資料：農林水産省「農林業センサス」)

(8) 常雇を雇い入れている販売農家数

本県の常雇農家数は 339 戸、雇業者数 966 人

平成 17 年 2 月 1 日現在の常雇を雇い入れている農家戸数は 339 戸、雇業者数は 966 人となっています。

本県の常雇を受け入れている農家数の推移

(単位：戸、人、%)

		販売農家数	雇用農家数	雇業者数	一農家当たり雇業者数
実数	平7	100,889	154	305	2.0
	12	91,660	226	553	2.4
	17	80,597	339	966	2.8
増減率	12年 / 7年	-9.1	46.8	81.3	23.5
	17年 / 12年	-12.1	50.0	74.7	16.5

(資料：農林水産省「農林業センサス」)

常雇：主として農業経営のために雇った人で、雇用契約に際し、あらかじめ7か月以上の期間を定めて雇った人

(9) 新規就農者

本県の平成 22 年 5 月 1 日現在の新規就農者数は 192 名

県では、就農希望者からの相談に適宜対応できるよう、各農林事務所に「新規就農相談所」を設置し、新規就農者の確保に努めています。

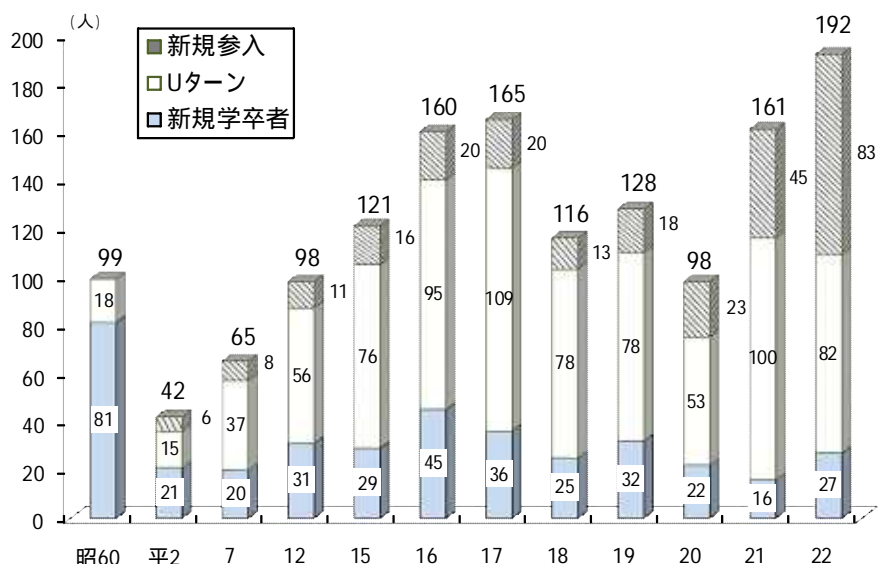
また、就農希望者には、農業総合センター農業短期大学校や県内の先進農家での研修による技術の習得や資金等の貸付け等により、円滑に経営開始ができるよう支援を行っています。

平成 22 年 5 月 1 日現在の新規就農者数は 192 名となっています。

本県の新規就農者の推移

(単位：人)

	昭60	平2	7	12	15	16	17	18	19	20	21	22
新規学卒者	81	21	20	31	29	45	36	25	32	22	16	27
Uターン	18	15	37	56	76	95	109	78	78	53	100	82
新規参入	-	6	8	11	16	20	20	13	18	23	45	83
合計	99	42	65	98	121	160	165	116	128	98	161	192
うち40歳未満	99	42	65	86	102	131	142	91	100	79	118	127



新規就農者：新たに農業を職業として選択し、150日以上農業に従事する者

(県農業振興課調べ)

昭和 60 年は、Uターン就農者に新規参入者が含まれる。

調査基準日は毎年 5 月 1 日現在であり、対象期間は前年 5 月 2 日～当該年 5 月 1 日

(10) 家族経営協定の締結

本県の平成 22 年 3 月末現在の家族経営協定締結数は 1,012 戸 (うち認定農業者がいる農家戸数は 805 戸)

家族経営協定は、経営計画や役割分担、生活上の諸事項等について取り決めを行うことで、農業に携わる家族全員の農業経営に対する参画意欲が高まり、それぞれの能力が十分に発揮され、農業経営の改善が期待されています。

平成 22 年 3 月末現在の家族経営協定の締結数は 1,012 戸で、このうち、認定農業者がいる農家戸数は 805 戸となっています。

本県の家族経営協定文書締結戸数 (平成 22 年 3 月末現在)

(単位：戸)

地方名	締結戸数	うち認定農業者がいる農家戸数
県北	253	231
県中	323	166
県南	83	72
会津	210	201
南会津	46	40
相双	82	82
いわき	15	13
県計	1,012	805

(県農業振興課調べ)

(11) エコファーマー

本県の平成 22 年 3 月末現在のエコファーマー数は 16,978 人

県では、持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律に基づき、土づくりと化学肥料・農薬の低減に一体的に取り組むエコファーマーを育成し、環境と調和しながら持続的に発展する農業の確立を目指しています。

県が作成した持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針に沿って、土づくり技術、化学肥料低減技術、化学農薬低減技術のすべてを導入するとともに化学肥料の窒素成分量及び化学農薬の有効成分数を標準より 2 割以上低減する計画を作成し、知事が認定した場合にエコファーマーになることができます。

平成 22 年 3 月末現在のエコファーマー数は 16,978 人、認定数は 19,556 件で水稲が最も多くなっています。

各地方別エコファーマー数の現状

(単位：人)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県計
平13年3月末				2				2
14年3月末	16	9		3	1	1	8	38
15年3月末	96	220	10	50	1	58	11	446
16年3月末	140	511	120	245	133	147	23	1,319
17年3月末	263	1,097	302	419	152	3,263	74	5,570
18年3月末	660	1,612	493	2,292	327	4,753	172	10,309
19年3月末	909	1,850	574	4,520	483	5,043	439	13,818
20年3月末	1,009	2,243	778	5,485	526	5,121	455	15,617
21年3月末	1,127	2,615	877	5,918	562	5,316	466	16,881
22年3月末	1,119	2,586	1,157	6,051	607	4,834	624	16,978

エコファーマーの認定数と導入計画面積(平成 22 年 3 月末現在)

(単位：件、ha)

	水稲	野菜	果樹	花き	その他	合計
認定数	12,695	5,355	1,211	203	92	19,556
面積	21,477	1,079	778	56	134	23,524

(県循環型農業課調べ)

(12) 特別栽培農産物の生産

県では、福島県特別栽培農産物認証制度による環境と共生する安全・安心な農産物の生産を推進しています。

平成 21 年度に認証された生産者数は 4,504 人、生産面積は 5,743ha となっています。

県内で生産される農産物に対する消費者の信頼の向上、イメージアップを図るため「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」及び自然循環環境の維持増進を基本とした生産の原則に基づき、県が定めた「特別栽培農産物における化学合成農薬及び化学肥料の慣行使用基準」の節減対象農薬の使用回数及び化学肥料の窒素成分量を 5 割以上節減して栽培された農産物を認証する制度

福島県特別栽培農産物認証制度による認証実績

(単位：人、ha)

	生産者数							栽培面積						
	平15	16	17	18	19	20	21	平15	16	17	18	19	20	21
米	719	716	1,028	1,278	2,270	3,610	3,610	796.6	807.9	1,255.0	1,545.0	2,999.5	4,906.8	5,648.6
小麦	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	32.6	37.6	29.4
野菜	24	22	18	45	255	305	255	2.5	3.2	2.6	5.3	23.3	68.7	50.6
ミニトマト	-	1	1	20	61	62	44	-	0.0	0.0	1.9	4.0	3.8	2.7
トマト	24	20	15	17	25	22	26	2.5	2.7	2.3	2.5	3.2	2.8	3.3
アスパラガス	-	-	-	4	28	32	-	-	-	-	0.3	3.0	4.0	-
レタス	-	1	(1)	1(1)	12	12	-	-	0.1	0.1	0.3	2.3	2.4	-
ネギ	-	-	-	-	19	19	10	-	-	-	-	2.2	2.2	1.2
ニラ	-	-	1	-	30	37	32	-	-	0.1	-	1.7	2.2	1.7
ピーマン	-	-	-	1	15	30	32	-	-	-	0.2	1.5	3.2	3.2
サヤインゲン	-	-	-	-	38	40	31	-	-	-	-	1.1	1.4	1.1
シュンギク	-	1	-	-	-	(1)	-	-	0.0	-	-	-	0.0	-
えだまめ	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	0.2	3.5
いちご	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	0.1	-
その他	-	1(1)	1(2)	3(2)	27(3)	49(1)	79	-	0.3	0.1	0.2	4.3	46.6	33.9
果樹	1	3	4	9	9	14	23	0.2	3.1	4.8	6.8	7.7	11.9	14.2
日本なし	-	1	1	5	5	9	13	-	2.2	2.2	2.6	3.7	7.0	8.8
りんご	-	-	(1)	1(1)	1(1)	1(2)	2	-	-	0.8	2.3	2.3	2.7	1.1
ぶどう	-	1	2	2	2	1(1)	2	-	0.7	1.0	1.0	0.9	0.9	1.3
もも	-	-	(1)	(1)	(1)	2	4	-	-	0.6	0.7	0.7	1.2	1.2
おうとう	-	-	1	1	1	1	2	-	-	0.2	0.2	0.2	0.2	1.8
かき	1	1	-	-	-	-	-	0.2	0.2	-	-	-	-	-
合計	744	741	1,050	1,332	2,535	3,930	4,504	799.3	814.2	1,262.4	1,557.1	3,063.0	5,025.1	5,742.8

生産者数の()内は、他の品目と重複

(県農産物安全流通課調べ)

2 農家経済

(1) 農家所得

平成20年の販売農家の総所得は392万4,000円で、前年と比べて41万9,000円(9.6%)減少しています。このうち農業所得は123万6,000円で全国平均より高くなっています。また、販売農家のうち、主業農家の農業所得は379万9,000円となっており、総所得の67%を占めています。

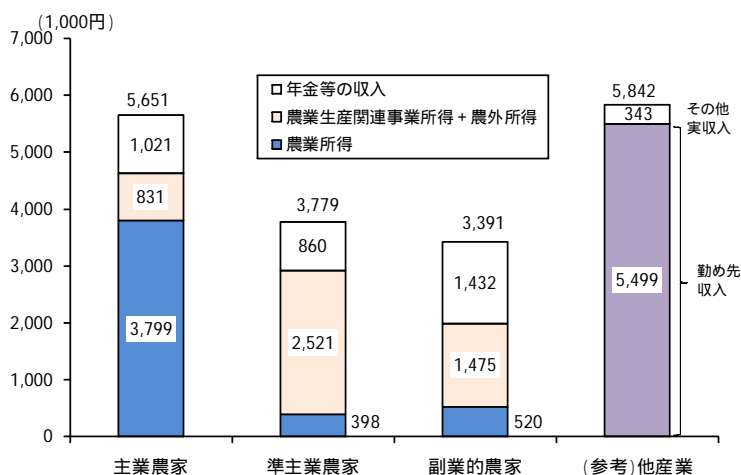
本県の農家所得(販売農家)の推移

		農業粗収益	総所得				農業依存度	農業所得率	
			農業所得	農業生産関連事業所得	農外所得	年金等の収入			
福島県	平16	3,641	4,419	1,325	31	1,760	1,303	42.5	36.4
	17	3,569	4,202	1,253	1	1,517	1,431	45.2	35.1
	18	3,601	4,259	1,317	19	1,541	1,382	45.8	36.6
	19	3,640	4,343	1,279	30	1,511	1,523	45.4	35.1
	20	3,662	3,924	1,236	10	1,386	1,292	47.0	33.8
全国	20	4,379	4,657	1,082	5	1,858	1,712	36.7	24.7
東北	20	3,846	4,036	908	2	1,758	1,368	34.0	23.6

農業依存度 = 農業所得 ÷ (農業所得 + 農業生産関連事業所得 + 農外所得) × 100

(資料: 農林水産省「農業経営統計調査」)

本県の平成20年主副業別農家所得



主業農家: 農業所得が主で、1年間に60日以上農業に従事している65歳未満の者がいる農家
 準主業農家: 農外所得が主で、1年間に60日以上農業に従事している65歳未満の者がいる農家
 副業的農家: 1年間に60日以上農業に従事している65歳未満の者がいない農家
 他産業: 勤労者世帯における実収入(全国平均)

(資料: 農林水産省「農業経営統計調査」、総務省「家計調査」)

(2) 営農類型別農家所得

平成20年の営農類型別にみると、農家総所得が最も高いのは施設野菜作経営の526万4,000円となっています。一方、最も低いのは肥育牛経営の212万2,000円となっています。また、農業所得率及び付加価値率が最も高いのは施設野菜作経営でそれぞれ48.3%、51.8%となっています。一方、最も低いのは肥育牛経営で農業所得率が2.9%、付加価値率が5.2%となっています。

本県の平成20年度経営類型別農家総所得

(単位: 千円、%)

	農業粗収益	総所得				農業所得率	付加価値額	付加価値率	
		農業所得	農業生産関連事業所得	農外所得	年金等の収入				
水田作経営	2,475	3,780	835	3	1,707	1,235	33.7	955	38.6
露地野菜作経営	3,867	4,019	1,780	65	612	1,562	46.0	1,906	49.3
施設野菜作経営	8,518	5,264	4,116	-7	428	727	48.3	4,414	51.8
果樹作経営	4,790	4,018	1,802	39	307	1,870	37.6	2,015	42.1
露地花き作経営	5,295	4,474	2,149	-	609	1,716	40.6	2,410	45.5
酪農経営	43,059	4,855	3,720	-	117	1,018	8.6	4,384	10.2
繁殖牛経営	2,996	2,814	694	-	1,458	662	23.2	749	25.0
肥育牛経営	18,971	2,122	548	-	208	1,366	2.9	988	5.2

農業所得率: 農業所得 ÷ 農業粗収益 × 100

(資料: 農林水産省「農業経営統計調査」)

付加価値額: 農業粗収益 - (農業経営費 - (雇用労賃 + 支払小作料 + 農業経営に係る負債利子))

付加価値率: 付加価値額 ÷ 農業粗収益 × 100

(3) 農業金融の動向

本県の主な制度資金の新規貸付額は約 28 億円

平成 21 年度における農業近代化資金、農業改良資金及び株式会社日本政策金融公庫資金（農業関係資金のみ、加工流通、病院等を除く）の新規貸付の合計額は約 28 億円で、前年比 115.9%となっています。

平成 19 年度から平成 21 年度までの 3 か年間は農業近代化資金及び農業経営基盤強化（スーパー L）資金等、株式会社日本政策金融公庫資金の一部に無利子化措置が講じられ、平成 21 年度はその最終年度にあったことから、貸付額は前年と比べて増加しています。

本県の主な農業関係制度資金貸付等実績

(単位：千円、%)

	農業近代化資金		農業改良資金		(株)日本政策金融公庫資金		合 計		(参考)
	金 額	前 年 比	金 額	前 年 比	金 額	前 年 比	金 額	前 年 比	天災 資金
昭60	3,437,730	-	1,160,917	-	11,605,531	-	16,204,178	-	0
平2	3,267,741	-	1,762,102	-	7,540,315	-	12,570,158	-	0
7	5,249,300	-	1,688,353	-	10,870,571	-	17,808,224	-	0
12	544,807	-	348,973	-	3,704,662	-	4,598,442	-	0
13	463,307	-	177,446	-	3,454,212	-	4,094,965	-	0
14	384,551	-	72,326	-	2,609,273	-	3,066,150	-	0
15	436,071	113.4	104,948	145.1	3,410,669	130.7	3,951,688	128.9	130
16	397,510	91.2	70,540	67.2	3,104,568	91.0	3,572,618	90.4	0
17	164,188	41.3	55,833	79.2	2,534,219	81.6	2,754,240	77.1	0
18	177,092	107.9	52,528	94.1	1,895,944	74.8	2,125,564	77.2	0
19	226,375	127.8	12,610	24.0	2,878,932	151.8	3,117,917	146.7	0
20	245,740	108.6	4,900	38.9	2,178,979	75.7	2,429,619	77.9	0
21	189,320	77.0	3,100	63.3	2,623,071	120.4	2,815,491	115.9	0

(株)日本政策金融公庫資金については速報値

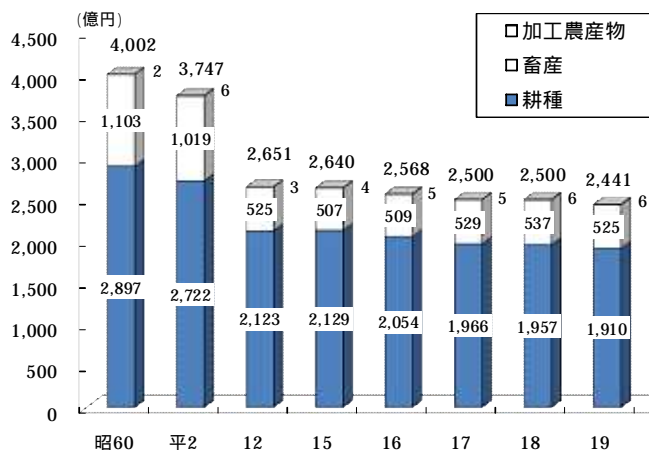
(県金融共済室調べ)

3 農業産出額

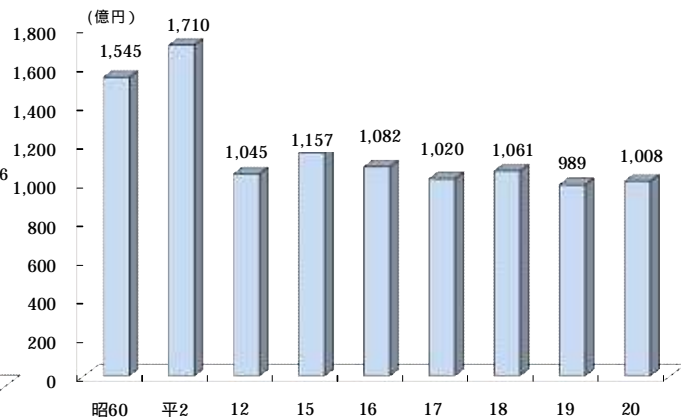
本県の平成 20 年農業産出額は 2,505 億円、生産農業所得は 1,008 億円

平成 20 年の農業産出額は 2,505 億円で、全国 11 位となっています。全体的な傾向としては、野菜、果実等は増加傾向にある一方、米が減少傾向にあることから、農業産出額は減少傾向にあります。また、生産農業所得は 1,008 億円となっています。

本県の農業産出額の推移



本県の生産農業所得の推移



(資料：農林水産省「生産農業所得統計」)

本県の農業産出額及び生産農業所得の推移

(単位：億円、%)

		昭60	平2	12	15	16	17	18	19	20
種類別 農業産出額 (構成比)	計	4,002 (100.0)	3,747 (100.0)	2,651 (100.0)	2,640 (100.0)	2,568 (100.0)	2,500 (100.0)	2,500 (100.0)	2,441 (100.0)	2,505 (100.0)
	米	1,757 (43.9)	1,497 (40.0)	1,112 (41.9)	1,159 (43.9)	1,032 (40.2)	1,012 (40.5)	975 (39.0)	901 (36.9)	987 (39.4)
	麦類	8 (0.2)	8 (0.2)	1 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	雑穀・豆類	31 (0.8)	28 (0.7)	18 (0.7)	20 (0.8)	24 (0.9)	16 (0.6)	15 (0.6)	12 (0.5)	13 (0.5)
	いも類	41 (1.0)	35 (0.9)	26 (1.0)	23 (0.9)	23 (0.9)	26 (1.0)	23 (0.9)	18 (0.7)	21 (0.8)
	野菜	591 (14.8)	666 (17.8)	499 (18.8)	511 (19.4)	531 (20.7)	492 (19.7)	523 (20.9)	551 (22.6)	536 (21.4)
	果実	305 (7.6)	339 (9.0)	283 (10.7)	247 (9.4)	275 (10.7)	267 (10.7)	284 (11.4)	293 (12.0)	275 (11.0)
	花き	23 (0.6)	66 (1.8)	83 (3.1)	74 (2.8)	78 (3.0)	74 (3.0)	66 (2.6)	70 (2.9)	65 (2.6)
	工芸農作物	253 (6.3)	168 (4.5)	80 (3.0)	73 (2.8)	68 (2.6)	56 (2.2)	51 (2.0)	47 (1.9)	50 (2.0)
	種苗・その他	32 (0.8)	26 (0.7)	23 (0.9)	22 (0.8)	21 (0.8)	21 (0.8)	20 (0.8)	18 (0.7)	17 (0.7)
	畜産	959 (24.0)	909 (24.3)	523 (19.7)	506 (19.2)	509 (19.8)	529 (21.2)	537 (21.5)	525 (21.5)	535 (21.4)
	養蚕	144 (3.6)	110 (2.9)	2 (0.1)	1 (0.0)					
	加工農産物	2 (0.0)	6 (0.2)	3 (0.1)	4 (0.2)	5 (0.2)	5 (0.2)	6 (0.2)	6 (0.2)	6 (0.2)
生産農業所得	1,545	1,710	1,045	1,157	1,082	1,020	1,061	989	1,008	

(資料：農林水産省「生産農業所得統計」)

農業産出額：個別農産物の生産量から中間生産物を控除した生産量に農家庭先価格を乗じて算出したもの

生産農業所得：農業産出額からその生産のために投入された物的経費を差し引いて、水田農業構造改革交付金等を加算したもの

養蚕の産出額は畜産の産出額に含まれている。

平成 19 年から同一県内市町村間で取引される「中間生産物」及び水田経営所得安定対策の導入で、交付金の一部が麦等の産出額に計上されないため、過年次データと単純に比較することはできない。

ラウンドのため、合計値が合わないことがある。

4 農畜産物の生産流通動向

(1) 米 [ふくしまイレブン]

ア 生産動向

(ア) 平成 21 年産水稻の作柄は、10a 当たりの収量が 541kg で作況指数 101、収穫量が 436,600t となっており、前年に比べて収穫量が 1,600t、作付面積が 600ha 減少しています。

なお、地域別の作況指数は、中通りが 101、浜通りが 99、会津が 100 となっています。

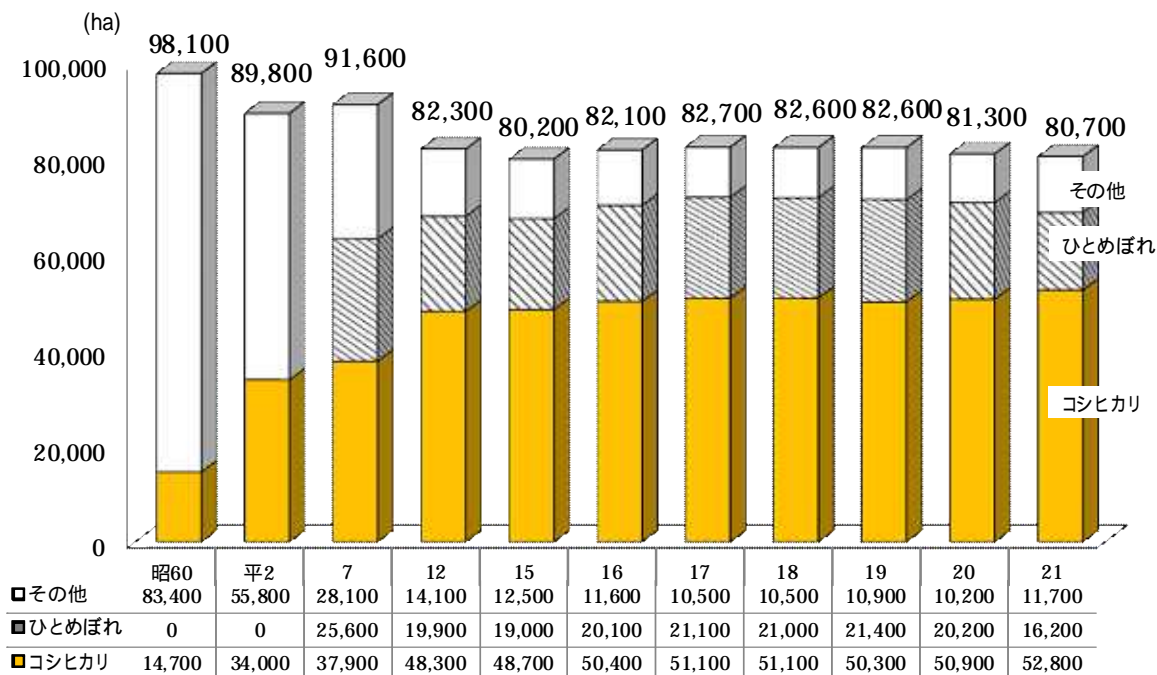
(イ) 平成 21 年産米の品種別作付状況は、水稻合計に占める作付比率をみると、コシヒカリが 65.4%、ひとめぼれが 20.1%となっており、2 品種で全体の 85%以上を占めています。

水陸稲作付面積・収穫量

		水陸稲合計		水 稲			
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)	作付面積 (ha)	10a当たり 収穫量 (kg)	収穫量 (t)	作況 指数
福島県	昭60	98,800	543,600	98,100	553	542,500	111
	平2	90,400	487,800	89,800	542	486,700	106
	7	91,900	464,000	91,600	506	463,500	99
	12	82,300	447,800	82,300	544	447,700	104
	15	80,200	377,700	80,200	471	377,700	89
	16	82,200	455,700	82,100	555	455,700	104
	17	82,800	449,100	82,700	543	449,100	101
	18	82,700	433,700	82,600	525	433,700	98
	19	82,700	445,200	82,600	539	445,200	100
	20	81,300	438,200	81,300	539	438,200	100
	21	80,700	436,600	80,700	541	436,600	101
(平21)	中通り	-	-	41,100	529	217,400	101
	浜通り	-	-	17,000	503	85,500	99
	会津	-	-	22,600	590	133,300	100
全国	平21	1,624,000	8,474,000	1,621,000	522	8,466,000	98
東北	平21	416,700	2,322,000	416,700	557	2,322,000	100

(資料：農林水産省「作物統計」)

本県の水稲品種別作付面積の推移



(資料：農林水産省「作物統計」, 「水稻の品種別収穫量」)

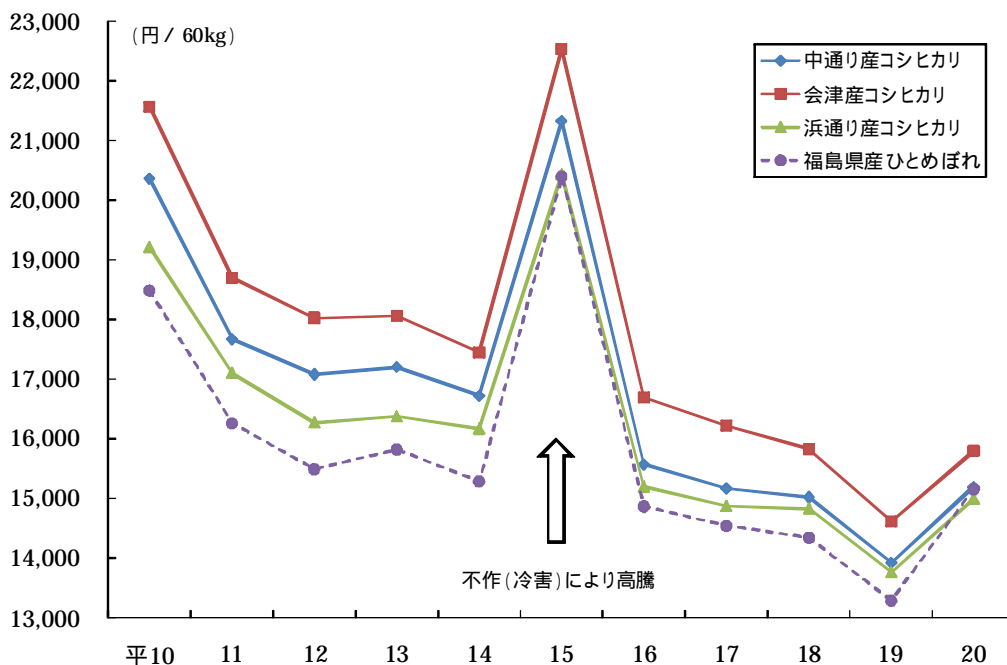
イ 価格動向

全国的に米の消費量が年々減少するなかで、生産調整の実効性が確保されておらず、また、消費者の低価格米への志向の強まりなどの影響から、全国同様、県産米も下落傾向にあります。

コメ価格センターにおける本県産米の指標価格の推移

(単位：円/60kg)

	平10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
中通り産コシヒカリ	20,371	17,676	17,086	17,208	16,729	21,336	15,577	15,173	15,027	13,930	15,200
会津産コシヒカリ	21,568	18,704	18,029	18,065	17,450	22,534	16,699	16,224	15,831	14,619	15,800
浜通り産コシヒカリ	19,220	17,108	16,277	16,383	16,172	20,443	15,201	14,877	14,829	13,770	15,000
福島県産ひとめぼれ	18,489	16,265	15,495	15,824	15,289	20,402	14,870	14,546	14,348	13,292	15,160



(資料：(財)全国米穀取引・価格形成センター)

包装代(紙袋)、拋出金、消費税を含まない。

平成16年3月までは、自主流通米による入札取引

福島県産「ひとめぼれ」は、平成15年産までは「全地区」、平成16年産以降は会津産の価格

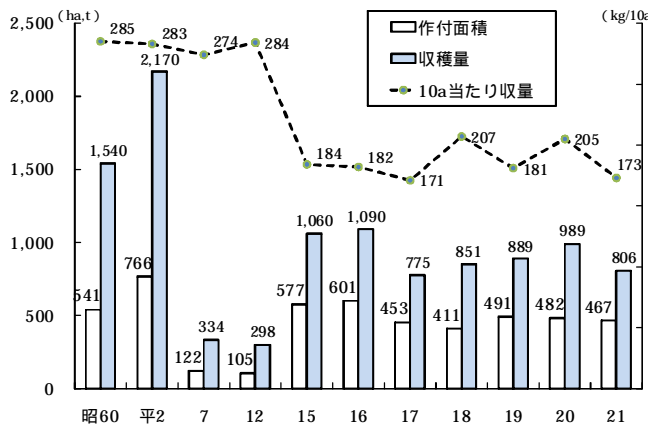
平成16年産以降は、種子・栽培履歴確認米の価格を記載

(2) 麦類・豆类・そば

ア 小麦

平成 21 年産の小麦の作付面積は 467ha、収穫量は 806t、10a 当たり収量は 173kg となっています。需要に沿った品種への切替えが進み、県産小麦を使った加工品(ラーメンやうどん等)の生産販売の取組みが見られています。

本県の「小麦」生産の推移



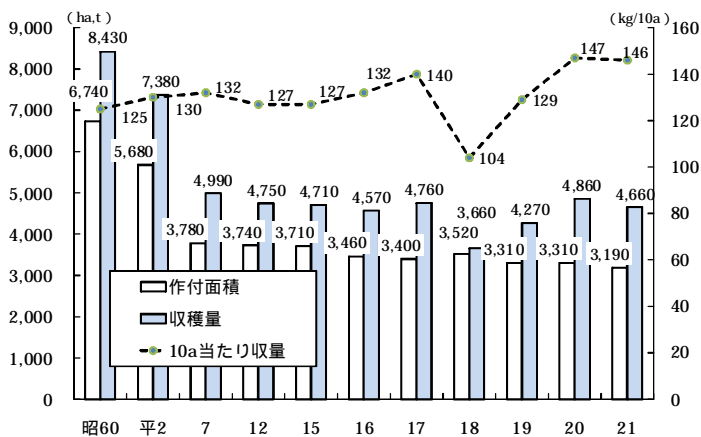
		作付面積 (ha)	10a 当たり収量 (kg)	収穫量 (t)	10a 当たり平均収量対比 (%)
福島県	昭60	541	285	1,540	104
	平2	766	283	2,170	98
	7	122	274	334	93
	12	105	284	298	93
	15	577	184	1,060	69
	16	601	182	1,090	66
	17	453	171	775	75
	18	411	207	851	102
	19	491	181	889	96
	20	482	205	989	113
21	467	173	806	92	
全国	平21	208,300	324	674,600	79
東北	平21	8,390	237	19,900	118

(資料：農林水産省「作物統計」)

イ 大豆

平成 21 年産の大豆の作付面積は 3,190ha、収穫量は 4,660t、10a 当たり収量は 146kg となっています。生産拡大とあわせ、県内加工業界等からの需要に対応できるように品質向上を推進しています。

本県の「大豆」生産の推移



		作付面積 (ha)	10a 当たり収量 (kg)	収穫量 (t)	10a 当たり平均収量対比 (%)
福島県	昭60	6,740	125	8,430	98
	平2	5,680	130	7,380	101
	7	3,780	132	4,990	102
	12	3,740	127	4,750	98
	15	3,710	127	4,710	99
	16	3,460	132	4,570	104
	17	3,400	140	4,760	110
	18	3,520	104	3,660	79
	19	3,310	129	4,270	98
	20	3,310	147	4,860	111
21	3,190	146	4,660	110	
全国	平21	145,400	156	227,000	95
東北	平21	41,600	135	56,200	97

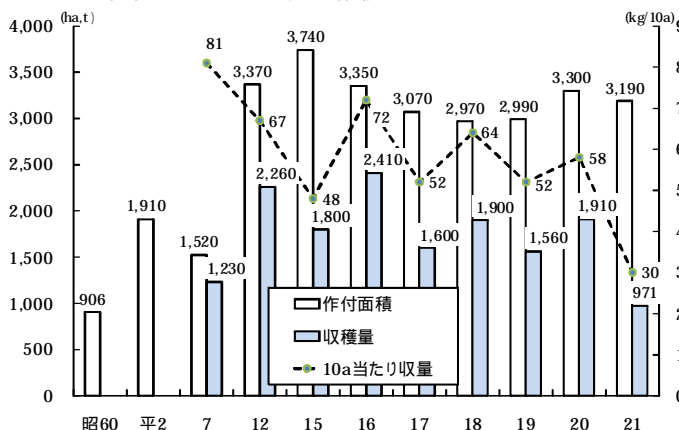
(資料：農林水産省「作物統計」)

ウ そば

平成 21 年産のそばの作付面積は 3,190ha、収穫量は 971t、10a 当たり収量は 30kg となっています。会津地方を中心に作付けされていますが、地域おこしと結びついた生産が、中通り・浜通り地方にも広がっています。

また、平成 20 年より県オリジナル品種「会津のかおり」の生産が開始されており、平成 21 年の秋そば作付面積は約 370 ha となっています。

本県の「そば」生産の推移



		作付面積 (ha)	10a 当たり収量 (kg)	収穫量 (t)
福島県	昭60	906	-	-
	平2	1,910	-	-
	7	1,520	81	1,230
	12	3,370	67	2,260
	15	3,740	48	1,800
	16	3,350	72	2,410
	17	3,070	52	1,600
	18	2,970	64	1,900
	19	2,990	52	1,560
	20	3,300	58	1,910
21	3,190	30	971	
主産県計	平21	37,800	40	15,300
東北	平21	13,400	-	-

(資料：農林水産省「作物統計」)

(3) 野菜

本県の平成 20 年産の野菜の延べ作付面積は 1 万 4,899ha (ばれいしょ及びびかんしょを含む)

平成 20 年産の野菜の延べ作付面積は 1 万 4,899ha で、前年に比べ 1ha 増加しました。このうち、主要野菜(ばれいしょを含む 22 品目)の作付面積は 10,340ha となっています。

主要野菜の作付面積は減少傾向にありますが、ブロッコリー、さといもが増加しています。

本県の平成 20 年産主要野菜(ばれいしょを含む 22 品目)種類別作付面積、収穫量及び出荷量

	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
根 菜 類	3,054	71,480	22,195
葉 茎 菜 類	4,182	72,125	40,396
果 菜 類	2,968	104,460	89,710
果 実 的 野 菜	136	2,840	2,540
計	10,340	250,905	154,841

(資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

野菜の類型区分(22 品目)

根 菜 類	だ い こ ん	葉 茎 菜 類	は く さ い	果 菜 類	き ゆ う り	果 実 的 野 菜	い ち ご
	に ん じ ん		キ ャ ベ ッ		な す		
	ば れ い し ょ		ち ん げ ん さ い		ト マ ト		
	さ と い も		ほ う れ ん そ う		ピ ー マ ン		
			し ゅ ん ぎ く		さ や い ん げ ん		
			ア ス パ ラ ガ ス		さ や え ん ど う		
			ブ ロ ッ コ リ ー				
			レ タ ス				
			ね ぎ				
			に ま ね ぎ				

ア 果菜類(きゅうり、トマト)[ふくしまイレブン]

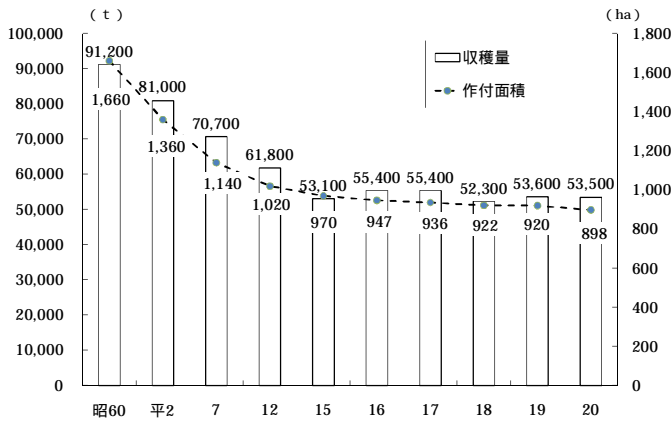
本県の平成 20 年産の作付面積はきゅうり 898ha、トマト 506ha

本県の主力作目であるきゅうりは、作型分化などは進んでいるものの、平成 20 年産の作付面積は、前年に比べて 22ha 減の 898ha で、減少傾向にあります。また、収穫量は前年に比べて 100t 減の 53,500t、出荷量は 100t 減の 47,500t となっています。

トマトは、共同選果場の導入による省力化が進んでいるものの、平成 20 年産の作付面積は、前年に比べて 11ha 減の 506ha で、減少傾向にあります。一方、収穫量は前年に比べて 900t 増の 33,200t、出荷量は 800t 増の 30,000t となっています。

県では主力となっているきゅうり、トマトに加え、ピーマンやなすの一層の生産を拡大し、京浜市場のほか、京阪神市場等へのシェア拡大及び地場消費を進め、果菜類産地の地位向上を図っています。

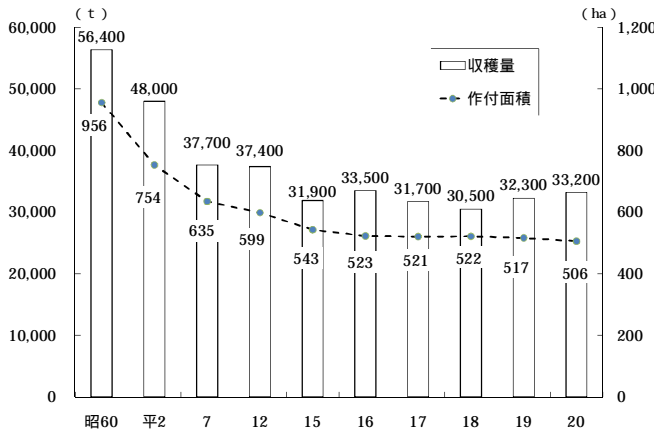
本県の「きゅうり」生産の推移〔 ふくしまイレブン 〕



		きゅうり		
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	1,660	91,200	78,635
	平2	1,360	81,000	69,900
	7	1,140	70,700	62,800
	12	1,020	61,800	53,900
	15	970	53,100	47,000
	16	947	55,400	48,900
	17	936	55,400	49,100
	18	922	52,300	46,600
	19	920	53,600	47,600
	20	898	53,500	47,500
全国	20	12,500	627,400	527,900

(資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

本県の「トマト」生産の推移〔 ふくしまイレブン 〕



		ト マ ト		
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	956	56,400	52,120
	平2	754	48,000	44,100
	7	635	37,700	34,500
	12	599	37,400	34,200
	15	543	31,900	28,800
	16	523	33,500	30,200
	17	521	31,700	28,600
	18	522	30,500	27,500
	19	517	32,300	29,200
	20	506	33,200	30,000
全国	20	12,500	732,800	648,300

(資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

イ 葉茎菜類（にら、アスパラガス〔ふくしまイレブン〕、ブロッコリー）

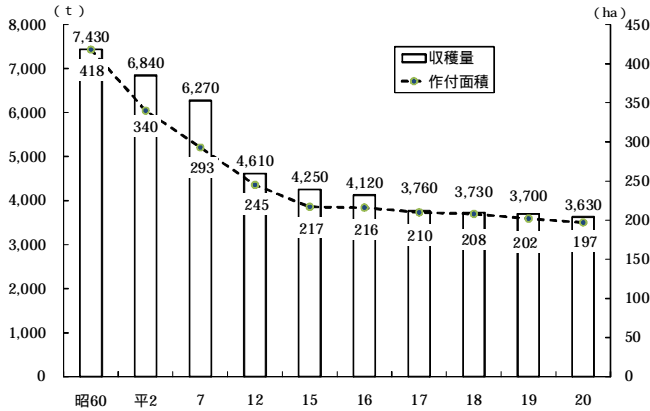
本県の平成20年産の作付面積はにら197ha、アスパラガス495ha、ブロッコリー674ha

平成20年産の葉茎菜類の作付面積は、にらが前年比べて5ha減の197ha、アスパラガスが31ha増の495ha、ブロッコリーが9ha増の674haとなっています。

にら、しゅんぎく、ほうれんそう等については、施設栽培のきゅうり、トマト等の後作や作型の組み合わせによる秋冬作や高冷地における夏作を中心に生産の拡大を積極的に進めています。

また、アスパラガス、ブロッコリーについては、本県の代表的な土地利用型野菜として、生産の拡大を図っています。

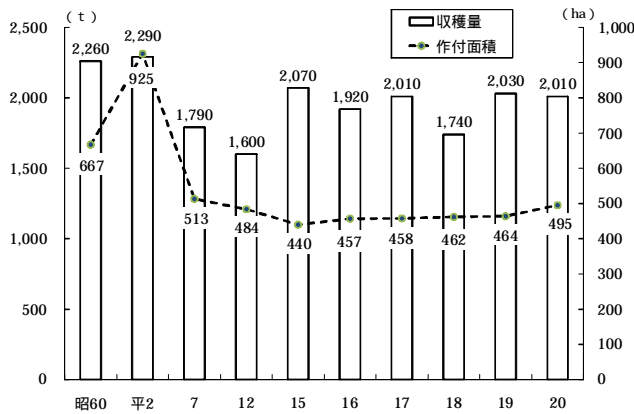
本県の「にら」生産の推移



		にら		
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	418	7,430	6,096
	平2	340	6,840	5,530
	7	293	6,270	5,200
	12	245	4,610	3,700
	15	217	4,250	3,550
	16	216	4,120	3,470
	17	210	3,760	3,160
	18	208	3,730	3,110
	19	202	3,700	3,150
	20	197	3,630	3,100
全国	20	2,240	65,300	58,900

(資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

本県の「アスパラガス」生産の推移〔ふくしまイレブン〕

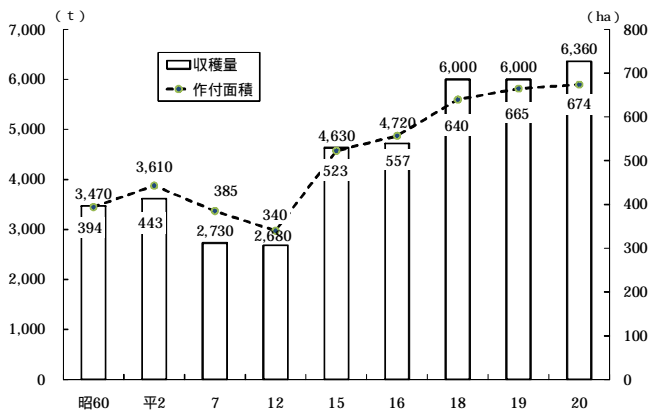


		アスパラガス		
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	667	2,260	1,917
	平2	925	2,290	1,990
	7	513	1,790	1,550
	12	484	1,600	1,340
	15	440	2,070	1,810
	16	457	1,920	1,670
	17	458	2,010	1,740
	18	462	1,740	1,520
	19	464	2,030	1,790
	20	495	2,010	1,720
全国	20	6,540	30,800	26,500

(資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

H.14年以前の作付面積は(収穫面積+株養成面積)

本県の「ブロッコリー」生産の推移



		ブロッコリー		
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	394	3,470	2,593
	平2	443	3,610	3,020
	7	385	2,730	2,150
	12	340	2,680	2,110
	15	523	4,630	3,880
	16	557	4,720	4,040
	17	610	5,440	4,710
	18	640	6,000	5,220
	19	665	6,000	5,210
	20	674	6,360	5,560
全国	20	12,700	136,900	120,800

(資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

ウ 青果用豆（さやいんげん、さやえんどう）

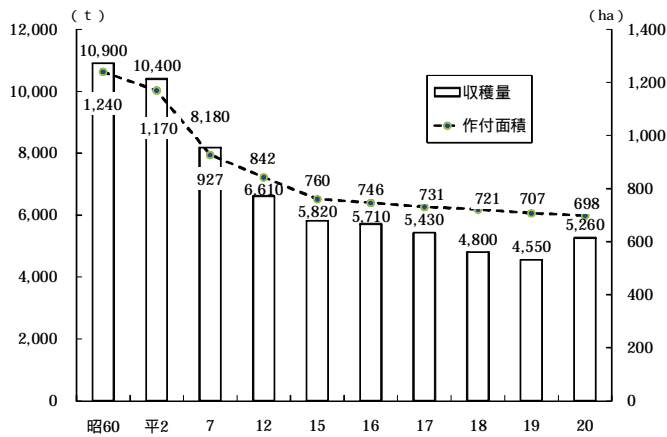
本県の平成 20 年産の作付面積はさやいんげん 698ha、さやえんどう 364ha

平成 20 年産のさやいんげんの作付面積は前年に比べて 9ha 減の 698ha、収穫量は 710t 増の 5,260t、出荷量は 530t 増の 3,620t となっています。

また、平成 20 年産のさやえんどうの作付面積は昨年と同じく 364ha、収穫量は 330t 増の 1,790t、出荷量は 280t 増の 1,420t となっています。

本県のさやいんげんは全国有数の収穫量を誇っていますが、夏秋期に偏重した出荷となっており、今後、ハウス等の施設栽培の導入により、出荷期間の長期化・安定化を進めていきます。

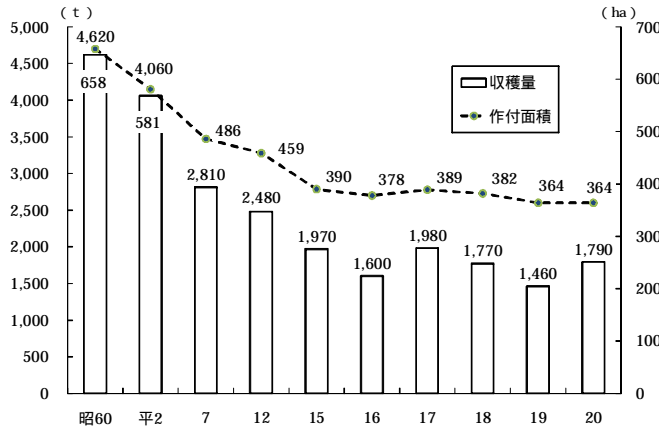
本県の「さやいんげん」生産の推移



		さやいんげん		
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	1,240	10,900	7,770
	平2	1,170	10,400	7,270
	7	927	8,180	5,700
	12	842	6,610	4,630
	15	760	5,820	4,180
	16	746	5,710	4,040
	17	731	5,430	3,830
	18	721	4,800	3,330
	19	707	4,550	3,090
	20	698	5,260	3,620
全国	20	7,030	50,900	32,200

(資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

本県の「さやえんどう」生産の推移



		さやえんどう		
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	658	4,620	3,677
	平2	581	4,060	3,140
	7	486	2,810	2,230
	12	459	2,480	1,980
	15	390	1,970	1,580
	16	378	1,600	1,250
	17	389	1,980	1,590
	18	382	1,770	1,410
	19	364	1,460	1,140
	20	364	1,790	1,420
全国	20	4,310	28,600	18,000

(資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

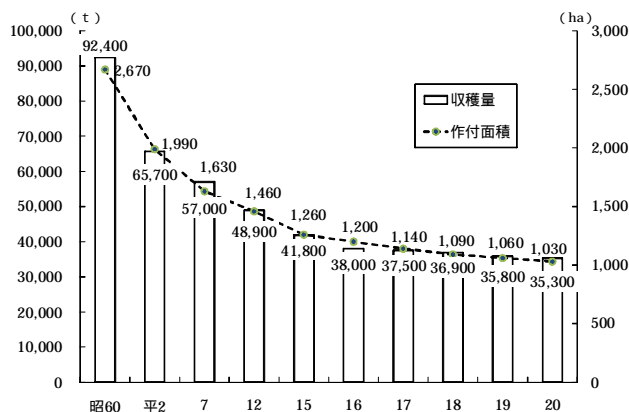
エ 根菜類（だいこん）

本県の平成 20 年産の作付面積はだいこん 1,030ha

平成 20 年産のだいこんの作付面積は、前年に比べて 30ha 減の 1,030ha、収穫量は 500t 減の 35,300t、出荷量は 200t 減の 15,300t となっています。

根菜類は輪作及び土づくりによる既存産地の再編整備並びに機械化体系の推進により、土地利用型野菜として積極的に生産を振興しています。

本県の「だいこん」生産の推移



		だいこん		
		作付面積 (ha)	収 穫 量 (t)	出 荷 量 (t)
福 島 県	昭60	2,670	92,400	49,577
	平2	1,990	65,700	30,800
	7	1,630	57,000	26,400
	12	1,460	48,900	22,400
	15	1,260	41,800	18,700
	16	1,200	38,000	17,200
	17	1,140	37,500	16,900
	18	1,090	36,900	15,600
	19	1,060	35,800	15,500
	20	1,030	35,300	15,300
全 国	20	36,600	1,603,000	1,250,000

（資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」）

オ 施設栽培

本県の平成 19 年の野菜栽培における施設栽培延べ面積は 1,019ha

野菜栽培で、平成 19 年の施設栽培延べ面積は 1,019ha、ガラス室・ハウス設置実面積は 845ha となっています。

品目別には、作付延べ面積の約 80%をきゅうり・トマト・いちご・にら・ほうれんそうが占めています。

このように野菜栽培の施設化が図られていますが、生産は依然として夏秋期に集中しており、今後は、低コスト耐候性ハウスも積極的に導入しながら、安定生産、気象災害の回避、高品質・高付加価値生産、作型分化による生産性の向上、周年出荷体制の確立等を推進していきます。

野菜の施設栽培延べ面積

（単位：千㎡）

	平元	3	5	7	9	11	13	15	17	19
なす	23	26	45	26	48	25	23	22	28	27
トマト	2,181	2,503	2,718	3,559	3,358	3,483	3,480	3,345	3,270	3,145
きゅうり	2,361	2,361	2,632	2,523	2,605	2,458	2,332	2,364	2,225	2,265
かぼちゃ	6	19	-	-	-	-	-	-	-	-
いちご	1,530	1,545	1,407	1,178	1,248	1,221	1,212	1,153	1,070	1,050
温室メロン	17	20	59	57	60	66	56	41	37	2
一般メロン	87	72	52	52	51	40	40	38	27	35
レタス	22	19	19	10	10	3	150	103	139	146
にら	1,466	1,453	1,352	1,356	1,300	1,285	1,037	1,022	976	830
さやえんどう	35	64	66	30	23	23	34	18	22	26
ほうれんそう	623	623	673	1,474	1,293	1,111	1,014	994	931	992
しゅんぎく	311	337	362	664	628	615	594	549	380	378
アスパラガス	878	903	857	652	613	635	578	571	527	310
さいいんげん	11	18	35	56	35	52	71	56	77	70
かぶ	163	131	50	97	-	-	-	-	-	-
みつば	20	50	41	39	-	-	-	-	81	-
こまつな	92	44	48	-	35	-	-	-	-	-
その他	463	380	504	327	508	841	987	765	1,241	914
計	10,288	10,568	10,920	12,100	11,815	11,858	11,608	11,041	11,031	10,190

野菜のガラス室・ハウス設置実面積

（単位：千㎡）

	平元	3	5	7	9	11	13	15	17	19
ガラス室	46	47	67	58	92	150	149	161	379	369
鉄骨ハウス	764	733	857	939	944	807	1,011	927	931	834
パイプハウス	7,489	8,032	8,487	8,520	8,615	8,854	8,288	8,097	7,347	7,250
計	8,299	8,812	9,411	9,517	9,651	9,811	9,448	9,185	8,657	8,453

（県園芸課調べ）

カ 主要野菜の流通について

東京都中央卸売市場（夏秋期）における平成 21 年産の本県主要野菜（きゅうり、トマト、さやいんげん、アスパラガス）の入荷量等の動向は、次のとおりとなっています。

（ア）夏秋きゅうり

本県産の夏秋きゅうり（7~10月）の入荷量は 10,100t で、前年に比べ 90t の増加となりました。期間中の占有率は 32.8% で、前年に比べ 0.6 ポイント上回っています。また、期間中の入荷量では、前年に続いて本県が第 1 位で、第 2 位の岩手県（入荷量：4,110t、占有率：13.3%）を大きく引き離し、以下、埼玉県、茨城県、秋田県の順となっています。

期間平均の卸売価格は 248 円で、前年より 20 円（8.8%）高となり、全産地の期間価格の 223 円より 25 円高となっています。

（イ）夏秋トマト

本県産の夏秋トマト（7~10月）の入荷量は 4,187t で、前年に比べ 531t（11.3%）の減少となりました。期間中の占有率は 12.8% で、前年に比べ 0.9 ポイント下回っています。また、期間中の入荷量では、全国第 1 位は青森県（入荷量：6,120t、占有率：18.7%）第 2 位が千葉県（入荷量：4,328t、占有率 13.2%）第 3 位が茨城県（入荷量：4,305t、占有率：13.1%）第 4 位が本県で以下、群馬県、岩手県、北海道の順となっています。

期間平均の卸売価格は 293 円で、前年より 37 円（14.5%）高となり、全産地の期間価格の 306 円に比べると 13 円安となっています。

（ウ）さやいんげん

本県産のさやいんげん（7~10月）の入荷量は 1,285t で、前年に比べ 125t（9.9%）の減少となりました。期間中の占有率は 54.9% で、前年に比べ 1.5 ポイント下回っています。また、期間中の入荷量では、前年に引き続き本県が全国第 1 位で、第 2 位の青森県（入荷量：241t、占有率：10.3%）を大きく引き離し、以下、茨城県、千葉県、群馬県の順となっています。

期間平均の卸売価格は 593 円で、前年より 56 円（10.4%）高となり、全産地の期間平均価格の 585 円と比べ 8 円高となっています。

（エ）アスパラガス

本県産のアスパラガス（5~9月）の入荷量は 750t で、前年に比べ 32t（4.1%）の減少となりました。期間中の占有率は 17.8% で、前年に比べ 1.7 ポイント下回っています。また、期間中の入荷量では、前年に続いて本県が第 1 位で、第 2 位が佐賀県（入荷量：642t、占有率 15.2%）以下、北海道、長崎県、秋田県の順となっています。

期間平均の卸売価格は 786 円で、前年より 19 円安（2.4%）となり、全産地の期間平均価格の 838 円と比べ 52 円安となっています。

東京都中央卸売市場における県産野菜の入荷量、占有率、卸売価格の推移

（単位：t、%、円/kg）

		7 月			8 月			9 月			10 月			期間中合計 / 平均		
		入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格
きゅうり	平16	3,667	40.4	180	3,260	41.0	283	1,678	21.6	336	298	6.1	414	8,903	30.0	255
	17	3,495	45.9	258	3,920	43.2	157	1,647	20.7	252	479	8.2	243	9,542	31.3	215
	18	2,982	42.4	278	3,688	43.8	250	2,037	27.2	258	596	8.9	160	9,303	31.4	255
	19	2,854	40.3	331	3,911	45.7	251	2,066	26.9	258	632	10.1	253	9,463	32.0	277
	20	3,367	39.8	182	3,609	46.6	250	2,357	28.2	247	677	10.4	273	10,010	32.2	228
21	3,389	43.4	233	3,537	45.0	304	2,491	28.3	202	683	10.8	197	10,100	32.8	248	
トマト	平16	1,375	14.2	251	1,437	14.6	231	1,401	15.2	231	713	11.5	401	4,926	14.1	287
	17	931	11.2	241	1,837	16.9	191	1,176	13.0	305	624	9.8	362	4,568	13.2	254
	18	972	11.8	268	1,605	16.3	292	1,103	13.1	369	821	11.6	389	4,502	13.4	323
	19	835	10.7	278	1,762	17.3	239	1,408	15.6	338	561	9.6	456	4,565	13.9	303
	20	955	10.1	198	1,744	18.9	216	1,321	14.1	283	698	11.0	384	4,718	13.7	256
21	842	10.2	273	1,528	17.0	295	928	11.9	367	890	11.6	231	4,187	12.8	293	
さやいんげん	平16	439	59.7	496	464	74.8	562	386	61.5	653	83	29.0	914	1,372	60.5	588
	17	458	62.8	528	433	71.7	498	343	61.5	610	78	20.3	740	1,312	57.7	552
	18	393	59.7	572	363	66.1	692	304	59.3	751	105	20.4	520	1,166	52.1	652
	19	372	58.2	687	352	66.1	636	239	60.5	889	68	19.7	909	1,032	53.9	731
	20	471	58.5	422	463	70.2	537	380	65.0	621	96	21.3	764	1,410	56.4	537
21	441	64.0	565	400	65.8	646	330	55.6	585	114	25.3	540	1,285	54.9	593	

		5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			期間中合計 / 平均		
		入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格
アスパラガス	平16	265	25.7	851	90	11.9	851	117	17.7	819	104	19.6	745	73	14.7	920	651	18.7	836
	17	207	24.2	981	116	12.2	804	100	15.4	1,010	201	27.8	651	122	22.3	838	746	20.0	845
	18	268	26.6	864	88	10.5	896	68	11.3	964	119	21.3	826	71	13.4	947	614	17.4	882
	19	283	25.4	901	114	11.8	743	95	13.6	887	193	27.0	740	145	25.1	833	830	20.4	829
	20	256	22.6	911	71	9.1	1,052	114	14.6	759	207	27.7	617	133	23.6	803	782	19.5	805
21	275	24.8	857	83	8.6	892	124	14.9	787	217	26.7	633	52	10.5	872	750	17.8	786	

（資料：「東京都中央卸売市場月報」）

(4) 果樹

本県の平成21年産主要果樹栽培面積は6,113ha

平成21年産の主要果樹は、前年に比べて栽培面積が69ha(1.1%)減の6,113ha、収穫量が4,960t(4.3%)減の10万9,450t、出荷量が4,250t(4.1%)減の98,740tとなっています。

前年と比較して、品目別の収穫量は、ももが1,700t(5.3%)減の3万100t、りんごが1,000t(2.6%)減の3万6,800t、日本なしが100t(0.4%)増の2万5,600tとなっています。

本県の平成20年産主要果樹の栽培面積、収穫量及び出荷量

区分	栽培面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	前年対比(%)		
				栽培面積	収穫量	出荷量
計	6,113	109,450	98,740	98.9	95.7	95.9
もも	1,790	30,100	27,900	100.0	94.7	94.9
りんご	1,460	36,800	32,800	96.7	97.4	97.3
日本なし	1,160	25,600	23,700	99.1	100.4	100.9
ぶどう	293	3,350	3,040	100.3	104.4	105.2
かき	1,410	13,600	11,300	99.3	84.5	93.7

(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

ア もも〔ふくしまレブン〕

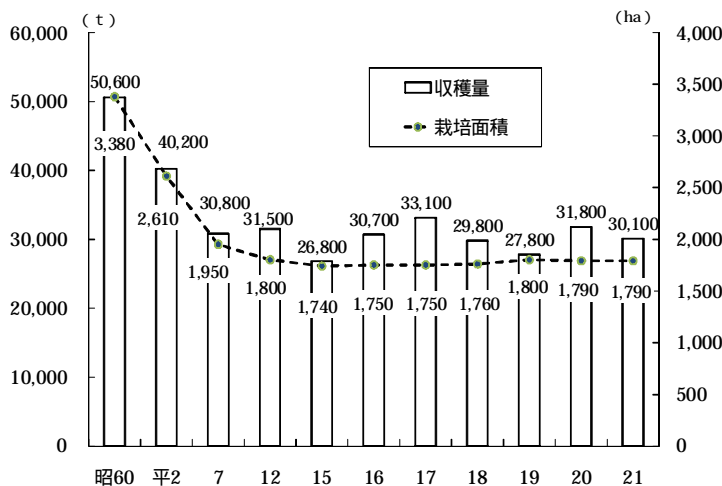
本県の平成21年産の栽培面積は1,790ha、収穫量は3万100t

平成21年産のももの栽培面積は前年と同じ1,790ha、収穫量は1,700t減の3万100tとなっています。

全国の平成21年産の収穫量は15万700tで、山梨県(全国シェア33%)に次いで、本県は全国第2位(20%)となっています。

他産地との競合や市場性を考慮し、「あかつき」「ゆうぞら」などの中、晩生種を中心にしながら、早生、中晩生種の導入も進め、高品質化と出荷時期の拡大を進めています。

本県の「もも」生産の推移〔ふくしまレブン〕



		もも		
		栽培面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	3,380	50,600	48,256
	平2	2,610	40,200	37,600
	7	1,950	30,800	28,800
	12	1,800	31,500	29,400
	15	1,740	26,800	24,800
	16	1,750	30,700	28,400
	17	1,750	33,100	30,600
	18	1,760	29,800	27,600
	19	1,800	27,800	25,700
	20	1,790	31,800	29,400
21	1,790	30,100	27,900	
全国	21	11,000	150,700	138,300
東北	21	2,770	43,106	39,484

(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

主要県における「もも」生産状況(平成21年産)

順位	県名	栽培面積		収穫量 (t)	出荷量 (t)
		(ha)	結果樹面積		
	全国	11,000	10,100	150,700	138,300
1	山梨	3,540	3,280	50,200	47,500
2	福島	1,790	1,560	30,100	27,900
3	長野	1,220	1,120	19,000	17,600
4	和歌山	781	776	12,100	11,000
5	山形	646	558	9,650	8,760

順位は収穫量を基準とした。
(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

イ 日本なし〔 Fukushima Apple 〕

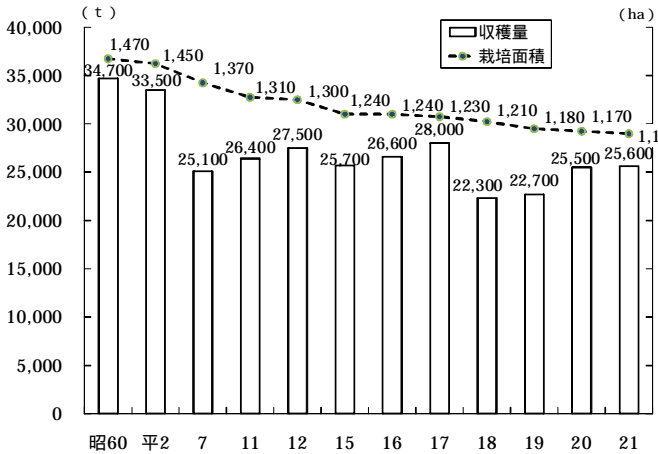
本県の平成 21 年産の栽培面積は 1,160ha、収穫量は 2 万 5,600t

平成 21 年産の日本なしの栽培面積は、前年に比べて 10ha 減の 1,160ha、収穫量は 100t 増の 2 万 5,600t、出荷量は 200t 増の 2 万 3,700t となっています。

全国の平成 21 年産の収穫量は 31 万 7,900t で、上位各県のシェアは千葉県が 13%、茨城県が 10%となっており、本県は 8%で全国第 3 位となっています。

本県では、「幸水」、「豊水」への偏重を回避し、バランスのとれた品種構成にするため、晩生種等の導入を進めています。

本県の「日本なし」生産の推移〔 Fukushima Apple 〕



		日本なし		
		栽培面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	1,470	34,700	32,733
	平2	1,450	33,500	30,700
	7	1,370	25,100	22,500
	12	1,300	27,500	24,900
	15	1,240	25,700	23,900
	16	1,240	26,600	24,600
	17	1,230	28,000	25,900
	18	1,210	22,300	20,500
	19	1,180	22,700	21,100
	20	1,170	25,500	23,500
全国	21	14,700	317,900	292,700
東北	21	1,880	36,911	32,895

(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

主要県における「日本なし」の生産状況 (平成 21 年産)

順位	県名	栽培面積		収穫量 (t)	出荷量 (t)
		(ha)	結果樹面積		
	全国	14,700	14,200	317,900	292,700
1	千葉県	1,720	1,620	40,200	38,200
2	茨城県	1,400	1,390	32,400	30,800
3	福島県	1,160	1,110	25,600	23,700
4	栃木県	889	858	23,300	21,600
5	鳥取県	1,180	1,098	22,300	20,400

順位は、収穫量を基準とした。(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

ウ りんご

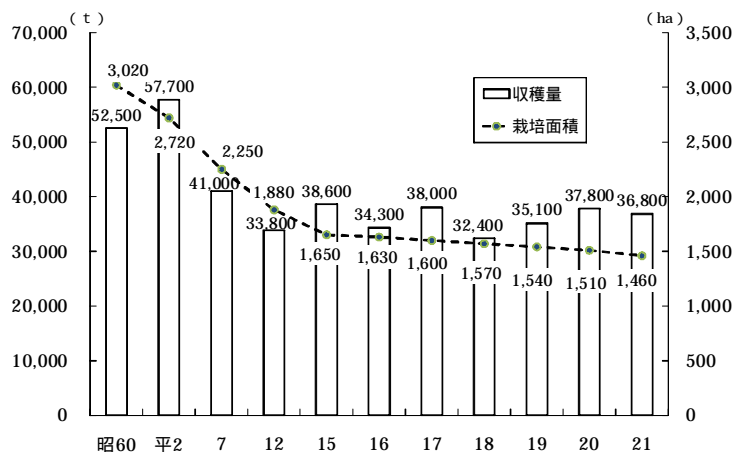
本県の平成 21 年産の栽培面積は 1,460ha、収穫量は 3 万 6,800t

平成 21 年産のりんごの栽培面積は前年に比べて 50ha 減の 1,460ha、収穫量は 1,000t 減の 3 万 6,800t、出荷量は 900t 減の 3 万 2,800t となっています。

全国の平成 21 年産の収穫量は 84 万 5,600t で、上位各県のシェアは青森県 54%、長野県 19%、岩手県 7%、山形県 6%、秋田県 4.5%、本県は 4.4%で全国 6 位となっています。

他県の主産地より早く出荷できる有利性を生かすため、「ふじ」偏重から早生種及び中生種への品種更新を進めています。

本県の「りんご」生産の推移



		りんご		
		栽培面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	3,020	52,500	48,122
	平2	2,720	57,700	52,500
	7	2,250	41,000	37,200
	12	1,880	33,800	30,800
	15	1,650	38,600	35,000
	16	1,630	34,300	31,000
	17	1,600	38,000	34,100
	18	1,570	32,400	29,000
	19	1,540	35,100	31,400
	20	1,510	37,800	33,700
	21	1,460	36,800	32,800
全国	21	41,100	845,600	751,200
東北	21	30,700	650,790	581,540

(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

主要県における「りんご」の生産状況 (平成 21 年産)

順位	県名	栽培面積		収穫量 (t)	出荷量 (t)
		(ha)	結果樹 面積		
	全国	41,100	38,800	845,600	751,200
1	青森	22,000	20,600	457,300	413,300
2	長野	8,220	7,920	160,000	139,000
3	岩手	2,770	2,610	60,600	52,100
4	山形	2,500	2,390	53,500	46,900
5	秋田	1,690	1,620	38,400	32,900
6	福島	1,460	1,390	36,800	32,800

順位は、収穫量を基準とした。(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

エ ぶどう

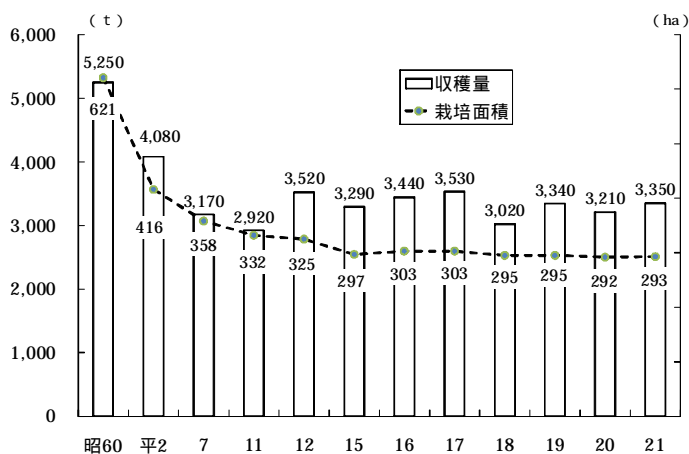
本県の平成 21 年産の栽培面積は 293ha、収穫量は 3,350t

平成 21 年産のぶどうの栽培面積は前年に比べて 1ha 増の 293ha、収穫量は 140t 増の 3,350t、出荷量は 150t 増の 3,040t となっています。

全国の平成 21 年産の収穫量は 20 万 2,200t で、上位各県のシェアは山梨県が 25%、長野県が 13%、山形県が 10% などとなっており、本県は 1.7% で全国第 12 位となっています。

市場評価の高い巨峰、高尾等の大粒品種への更新、雨除け施設における高位安定生産技術の普及により、生産性の向上を図るとともに、オリジナル品種「あづましずく」の導入を推進しています。

本県の「ぶどう」生産の推移



		ぶ ど う		
		栽培面積 (ha)	収 穫 量 (t)	出 荷 量 (t)
福 島 県	昭60	621	5,250	4,899
	平2	416	4,080	3,730
	7	358	3,170	2,870
	12	325	3,520	3,200
	15	297	3,290	3,040
	16	303	3,440	3,150
	17	303	3,530	3,190
	18	295	3,020	2,730
	19	295	3,340	3,030
	20	292	3,210	2,890
	21	293	3,350	3,040
全国	21	19,400	202,200	184,800
東北	21	3,180	34,987	31,113

(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

主要県における「ぶどう」の生産状況(平成 21 年産)

順 位	県 名	栽 培		収 穫 量 (t)	出 荷 量 (t)
		面 積 (ha)	結 果 樹 面 積		
	全 国	19,400	18,300	202,200	184,800
1	山 梨	4,290	4,050	50,600	46,900
2	長 野	2,450	2,300	27,100	25,200
3	山 形	1,760	1,690	20,100	18,200
4	岡 山	1,230	1,110	15,400	13,700
5	福 岡	981	951	10,100	9,280
12	福 島	293	277	3,350	3,040

順位は、収穫量を基準とした。(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

オ かき

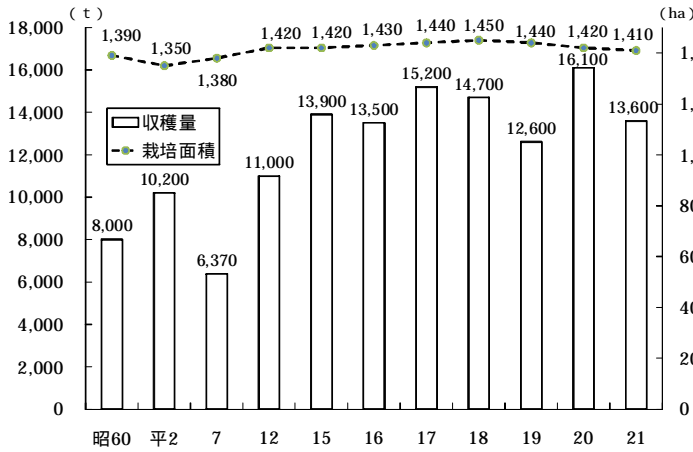
本県の平成 21 年産の栽培面積は 1,410ha、収穫量は 13,600t

平成 21 年産のかきの栽培面積は前年に比べて 10ha 減の 1,410ha、収穫量は 2,500t 減の 1 万 3,600t、出荷量は 2,200t 減の 1 万 1,300t となっています。

全国の平成 21 年産の収穫量は 25 万 8,000t で、上位各県のシェアは和歌山県 22%、奈良県 12%、福岡県 10% などとなっており、本県は 5.3% で全国第 5 位となっています。

また、本県の品種別収穫量をみると、「蜂屋」や「会津身不知」等の渋柿が 98% を占めており、あんぼ柿の加工原料となる「蜂屋」等の県内産自給体制の確立と本県特産である「会津身不知」の産地拡大を推進しています。

本県の「かき」生産の推移



		かき		
		栽培面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
福島県	昭60	1,390	8,000	6,013
	平2	1,350	10,200	8,270
	7	1,380	6,370	4,960
	12	1,420	11,000	8,670
	15	1,420	13,900	11,600
	16	1,430	13,500	11,200
	17	1,440	15,200	12,600
	18	1,450	14,700	12,200
	19	1,440	12,600	10,400
	20	1,420	16,100	13,500
	21	1,410	13,600	11,300
全国	21	23,600	258,000	212,100
東北	21	3,060	24,378	19,084

(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

主要県における「かき」の生産状況(平成 21 年産)

順位	県名	栽培面積		収穫量 (t)	出荷量 (t)
		(ha)	結果樹面積		
	全国	23,600	22,700	258,000	212,100
1	和歌山	2,850	2,810	57,300	51,800
2	奈良	1,870	1,860	30,900	28,400
3	福岡	2,070	2,020	24,800	22,500
4	岐阜	1,460	1,390	17,700	15,500
5	福島	1,410	1,280	13,600	11,300

順位は、収穫量を基準とした。(資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」)

カ 施設栽培

平成 19 年における果樹栽培の施設栽培延べ面積は 112 千㎡で、大部分がぶどうとおとうの 2 品目で占められています。

本県の果樹の施設栽培延べ面積

(単位：千㎡)

	昭60	62	平元	3	5	7	9	11	13	15	17	19
ぶどう	4	4	14	14	21	38	27	28	28	35	65	68
巨峰			10	10	15	32	16	17	17	20	36	50
その他ぶどう	4	4	4	4	6	6	11	11	11	15	29	18
おとう					26	10	16	10	10	10	8	37
その他							1	2	2	2	2	2
計	4	4	14	14	47	48	44	40	40	49	78	112

(県園芸課調べ)

キ 主要果実の流通について

東京中央卸売市場（8～11月）における平成21年産の本県主要果実（もも、なし、りんご）の入荷量等の動向は、次のとおりとなっています。

（ア）もも

本県産のもも入荷量（8～11月）は3,294tで、前年に比べ305t（8.5%）の減少となり、期間中の占有率は47.5%で、前年に比べ4.2ポイント上回っています。また、期間中の入荷量では、第1位が本県で、第2位が山梨県（入荷量2,540t、占有率31.2%）以下、長野県、山形県の順となっています。

期間平均の卸売価格は389円で、前年より20円（5.4%）高となり、全産地の期間価格の390円に比べると1円安となっています。

（イ）なし（「幸水」）

本県産のなし（「幸水」）入荷量（8～11月）は2,197tで、前年に比べ483t（18.0%）の減少となり、期間中の占有率は19.5%で、前年に比べ1.5ポイント下回っています。また、期間中の入荷量では、第1位が茨城県（入荷量2,697t、占有率23.9%）で、以下、本県、栃木県、千葉県の前となっています。

期間平均の卸売価格は220円で、前年より32円（17.0%）高となり、全産地の期間平均の262円と比べると42円安となっています。

（ウ）りんご（「ふじ」）

本県産のりんご（「ふじ」）入荷量（8～11月）は362tで、前年に比べ101t（40.6%）の増加となり、期間中の占有率は3.5%で、前年に比べ0.9ポイント上回っています。また、期間中の入荷量では、第1位は青森県（入荷量：3,932t、占有率：37.8%）、第2位は山形県（入荷量：3,835t、占有率：36.8%）、第3位は長野県（入荷量：1,558t、占有率：15.0%）、第4位が岩手県、第5位が本県となっています。

期間平均の卸売価格は154円で、前年より16円（9.4%）安となり、全産地の期間平均の233円と比べると79円安となっています。

東京都卸売市場における県産果実の占有率と卸売価格の推移

（単位：t、%、円/kg）

		8月			9月			10月			11月			期間中合計/平均		
		入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格	入荷量	占有率	卸売価格
もも	平16	2,242	40.1	407	289	37.9	506	3	25.0	530	0	100.0	336	2,534	39.9	419
	17	3,090	40.5	294	1,102	49.1	318	17	30.3	355	0	1.7	233	4,210	42.4	301
	18	2,583	40.3	401	900	46.4	461	13	26.0	454	-	-	-	3,496	41.6	417
	19	1,938	34.9	433	429	32.4	484	8	15.2	516	3	87.8	323	2,375	34.3	442
	20	2,837	43.0	359	755	45.2	408	6	20.4	500	-	-	-	3,599	43.3	369
	21	2,751	48.5	384	537	43.3	411	6	31.8	464	0	3.2	541	3,294	47.5	389
なし「幸水」	平16	1,080	10.6	212	1,899	69.9	195	1	9.1	127	-	-	-	2,979	23.1	201
	17	113	1.1	205	3,093	57.5	185	5	33.9	158	-	-	-	3,211	21.0	185
	18	420	5.9	351	1,741	60.5	297	0	5.1	158	-	-	-	2,161	21.6	307
	19	595	7.6	333	1,569	61.1	277	1	32.3	255	-	-	-	2,165	20.8	292
	20	314	3.7	213	2,365	55.8	185	1	13.8	253	0	2.5	147	2,680	21.0	188
	21	918	10.0	238	1,268	61.9	207	12	81.7	159	-	-	-	2,197	19.5	220
りんご「ふじ」	平16	-	-	-	0	0.2	205	15	1.2	315	108	1.9	199	123	1.5	213
	17	-	-	-	-	-	-	16	1.5	263	198	3.5	190	214	2.8	196
	18	-	-	-	-	-	-	33	2.5	295	190	3.2	219	222	2.7	230
	19	-	-	-	4	16.5	330	26	2.1	301	230	3.8	220	259	3.6	229
	20	-	-	-	2	1.8	274	17	1	238	232	3.4	165	251	2.6	170
	21	-	-	-	10	9.0	271	41	1.8	234	311	4.4	140	362	3.5	154

ラウンドのため、合計値が合わないことがある。

（資料：「東京都中央卸売市場月報」）

(5) 花き

本県の平成20年産の花き作付面積は596ha

本県では、広大な県土と浜通りから会津地方までの豊かな自然環境及び京浜・仙台等の大消費地を近くに控えた立地条件を活かしながら、切花類、枝物類、鉢物類等が生産されています。

平成20年の花きの作付面積は596haとなっています。

本県の「花き」作付面積の推移

(単位: ha)

		平12	13	14	15	16	17	18	19	20
切花類	きく	128	133	128	134	133	132	125	126	123
	宿根かすみそう	59	60	66	65	68	63	62	59	56
	りんどう	44	41	42	41	42	39	41	39	40
	トルコギキョウ	24	25	28	30	29	28	30	31	32
	枝物類	195	188	201	201	215	195	191	187	169
	その他	144	146	133	138	136	117	113	112	110
	切花類 計	594	593	598	609	623	574	562	554	530
鉢物類	44	40	37	40	41	43	42	40	41	
花壇用苗物	10	12	14	15	15	13	12	13	13	
球根類	9	6	7	7	4	2	2	2	1	
芝類	31	31	31	31	11	11	10	10	10	
合計	688	681	687	703	693	642	628	620	596	

ラウンドのため、合計値が合わないことがある。

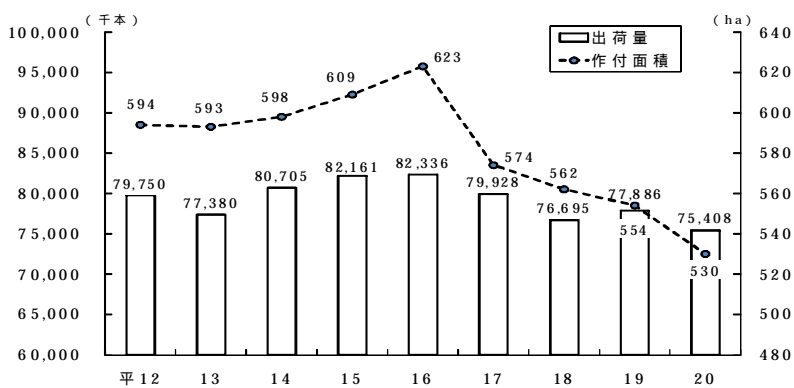
(県園芸課調べ)

ア 切花類

本県の平成20年における切花類の作付面積は530ha、出荷量は7,541万本

品目別では、きく、宿根かすみそう、りんどうの順に作付けが多く、これら3品目で切花類全体の約40%を占めています。近年の洋花志向を反映し、トルコギキョウ、カラー、ユリ等の品目についても、本県農業の主要な部分を担う主力品目として積極的に生産拡大を推進しています。

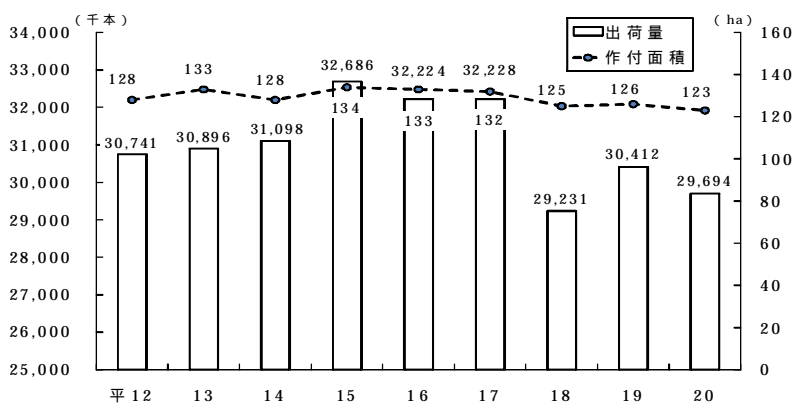
本県の「切花類」生産の推移



		切花類	
		作付面積 (ha)	出荷量 (千本)
福島県	平12	594	79,750
	13	593	77,380
	14	598	80,705
	15	609	82,161
	16	623	82,336
	17	574	79,928
	18	562	76,695
	19	554	77,886
	20	530	75,408

(県園芸課調べ)

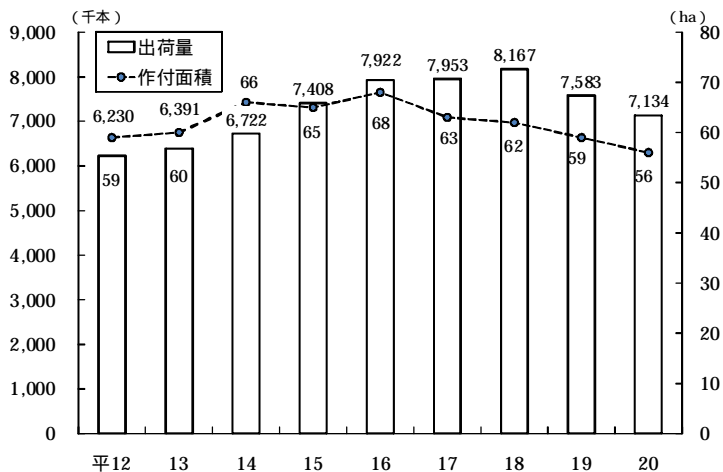
本県の「きく」生産の推移



		きく	
		作付面積 (ha)	出荷量 (千本)
福島県	平12	128	30,741
	13	133	30,896
	14	128	31,098
	15	134	32,686
	16	133	32,224
	17	132	32,228
	18	125	29,231
	19	126	30,412
	20	123	29,694

(県園芸課調べ)

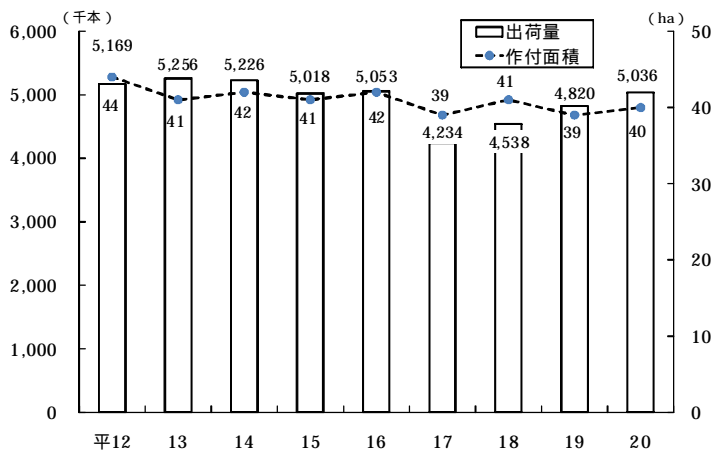
本県の「宿根かすみそう」生産の推移



		宿根かすみそう	
		作付面積 (ha)	出荷量 (千本)
福島県	平12	59	6,230
	13	60	6,391
	14	66	6,722
	15	65	7,408
	16	68	7,922
	17	63	7,953
	18	62	8,167
	19	59	7,583
	20	56	7,134

(県園芸課調べ)

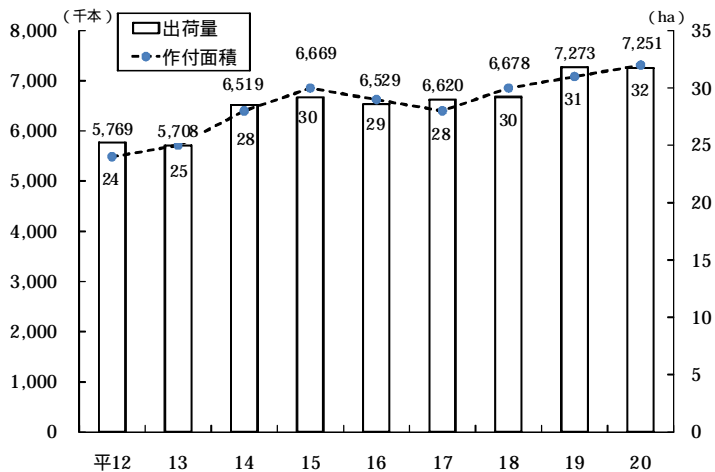
本県の「りんどう」の生産の推移〔ふくしまイレブン〕



		りんどう	
		作付面積 (ha)	出荷量 (千本)
福島県	平12	44	5,169
	13	41	5,256
	14	42	5,226
	15	41	5,018
	16	42	5,053
	17	39	4,234
	18	41	4,538
	19	39	4,820
	20	40	5,036

(県園芸課調べ)

本県の「トルコギキョウ」生産の推移



		トルコギキョウ	
		作付面積 (ha)	出荷量 (千本)
福島県	平12	24	5,769
	13	25	5,708
	14	28	6,519
	15	30	6,669
	16	29	6,529
	17	28	6,620
	18	30	6,678
	19	31	7,273
	20	32	7,251

(県園芸課調べ)

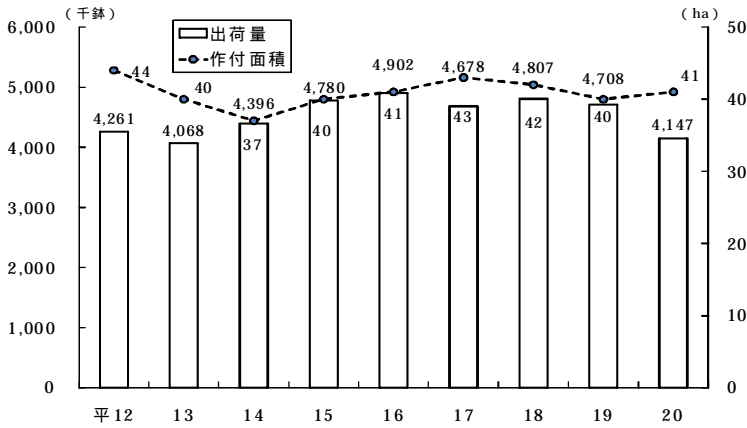
イ 鉢物類

本県の平成 20 年における鉢物類の作付面積は 41ha、出荷量 415 万鉢

栽培されている主要品目は、シクラメン、プリムラ類、ポインセチアなどで、農家の経営形態に合わせ、各品目を組み合わせた生産が行われています。

近年、鉢物類は種類が多様化するとともに、増加傾向にあった需要が減少傾向にあることから、消費者ニーズに対応した経営感覚が要求されるとともに、生産コスト低減を図るための省力生産体制の整備が重要となっています。

本県の「鉢物類」生産の推移



		鉢物類	
		作付面積 (ha)	出荷量 (千鉢)
福島県	平12	44	4,261
	13	40	4,068
	14	37	4,396
	15	40	4,780
	16	41	4,902
	17	43	4,678
	18	42	4,807
	19	40	4,708
	20	41	4,147

(県園芸課調べ)

ウ 施設栽培

平成 19 年の花きの施設延べ面積は 237ha で、品目別では切花部門が大半を占めています。

本県の花きの施設栽培延べ面積

(単位：千 m²)

		昭和60	62	平元	3	5	7	9	11	13	15	17	19
切花類	きく	45	59	77	91	139	178	156	291	180	141	164	150
	カーネーション	49	60	67	77	61	71	53	50	38	35	13	16
	ばら	4	6	13	35	40	49	49	63	50	53	35	35
	ゆり(切花)	16	13	4	6	9	46	53	53	82	84	88	49
	ストック	36	75	117	131	171	133	81	125	113	127	112	134
	その他	59	136	337	719	839	1,047	1,350	1,261	728	1,304	1,249	1,667
小計		208	349	615	1,059	1,259	1,524	1,742	1,843	1,919	1,744	1,661	2,051
鉢物類		96	95	76	123	120	261	216	333	309	311	358	320
合計		304	444	691	1,182	1,379	1,785	1,958	2,176	2,228	2,055	2,019	2,371

(県園芸課調べ)

(6) 工芸農作物

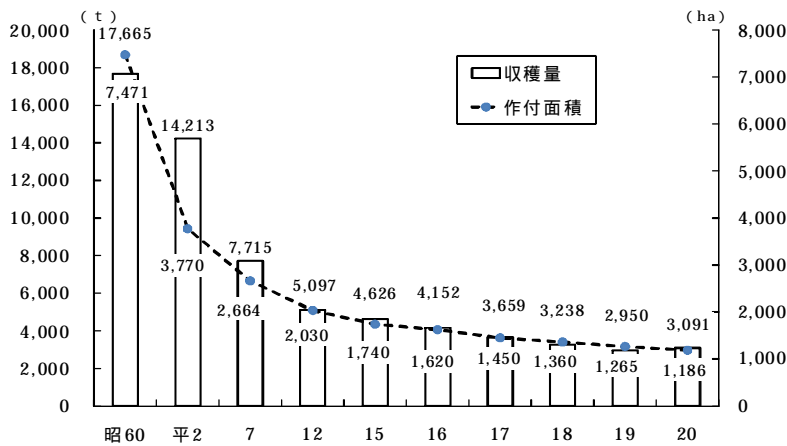
本県の平成 20 年の作付面積は 1,186ha、収穫量は 3,091t

主要な工芸農作物である葉たばこ、こんにゃくいも、おたねにんじんの平成 20 年産の作付面積合計は 1,186ha となっています。また、平成 20 年の工芸農作物の産出額は 50 億円で、農業産出額全体に占める割合は 1.9%となっています。

本県の工芸農作物は、葉たばこを中心として古くから山間・山沿地域における畑作の基幹作物として農業経営はもとより、地域経済の発展に大きな役割を果たしてきました。

しかしながら、近年の担い手の高齢化、需給の不均衡による価格の不安定化、嗜好の変化及び輸入の増大等から、生産は減少傾向が続いています。

本県の工芸農作物生産の推移



		工芸農作物合計	
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)
福島県	昭60	7,471	17,665
	平2	3,770	14,213
	7	2,664	7,715
	12	2,030	5,097
	15	1,740	4,626
	16	1,620	4,152
	17	1,450	3,659
	18	1,360	3,238
	19	1,265	2,950
	20	1,186	3,091

ア 葉たばこ、イ こんにゃくいも、ウ おたねにんじんの計 (平成 12 年度まではホップを含む)

ア 葉たばこ

本県の平成 20 年の作付面積は 1,144ha、収穫量は 2,575t

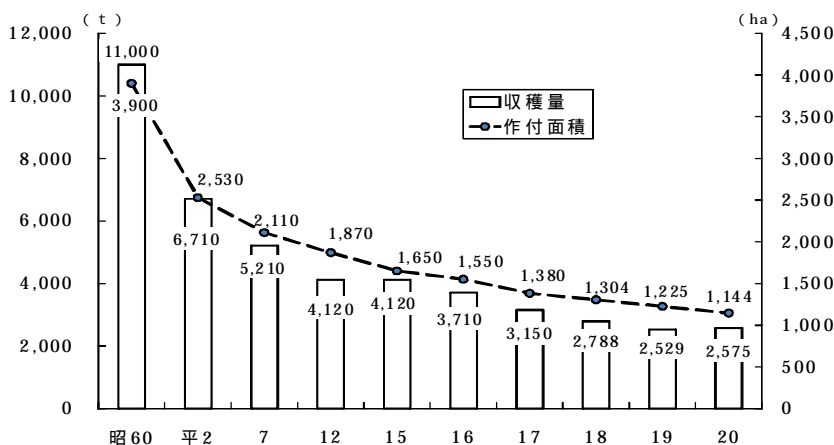
本県の葉たばこは、在来種の松川葉を主力とし、阿武隈高地をはじめとする県内全域で栽培され、昭和 63 年までは全国第 1 位の産地を形成してきました。

しかしながら、作付面積は昭和 41 年に 8,310ha と最高を記録したものの、以降、喫煙人口の減少や景気の影響等により面積は年々減少をたどり、さらに、昭和 57 年、60 年、平成元年、17 年に実施された大幅な生産調整を経て、平成 20 年は 1,144ha となっています。

近年、喫味の軽いタバコが好まれるようになったことから、従来の在来種からバーレー種への品種転換が行われ、その作付面積は、全体の 88%を占めています。

本県では、平成 20 年度からさらなる作業効率の向上や良質葉たばこ生産に向け、より優良なバーレー種 (たいへい) の試験的に導入を行っています。

本県の「葉たばこ」生産の推移



		葉たばこ	
		作付面積 (ha)	収穫量 (t)
福島県	昭60	3,900	11,000
	平2	2,530	6,710
	7	2,110	5,210
	12	1,870	4,120
	15	1,650	4,120
	16	1,550	3,710
	17	1,380	3,150
	18	1,304	2,788
	19	1,225	2,529
	20	1,144	2,575
全国	20	16,778	38,484

(福島県たばこ耕作組合調べ)

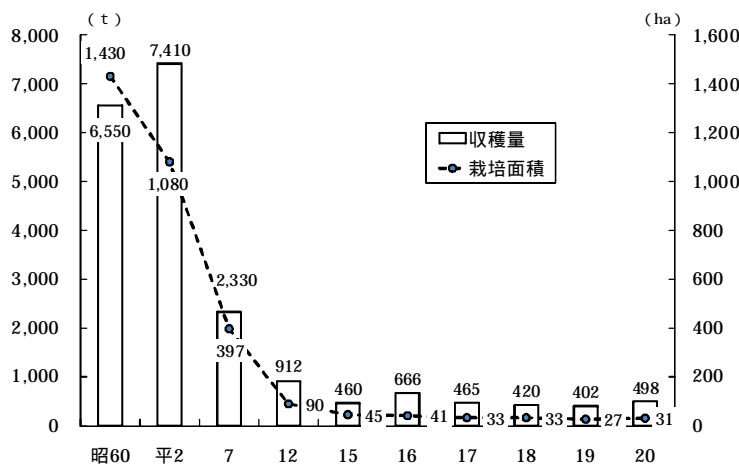
イ こんにゃくいも

本県の平成 20 年産の栽培面積は 31ha、収穫量は 498t

こんにゃくはいも、東白川地方を主産地とし、福島市、いわき市の山間傾斜地における基幹作物として生産されており、全国第 4 位の産地となっていますが、栽培面積は昭和 50 年の 2,130ha を最高として、その後、年々減少し、平成 20 年では 31ha となっています。

これは、安価な輸入品の増加により、国産品の価格が低迷し、生産意欲が減退したことなどが大きな原因ですが、近年は、国産原料が見直されています。

本県の「こんにゃくいも」生産の推移



		こんにゃくいも		
		栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)
福島県	昭60	1,430	548	6,550
	平2	1,080	502	7,410
	7	397	194	2,330
	12	90	48	912
	15	45	25	460
	16	41	28	666
	17	33	22	465
	18	33	20	420
	19	27	18	402
	20	31	20	498

((財)日本こんにゃく協会調べ)

ウ おたねにんじん

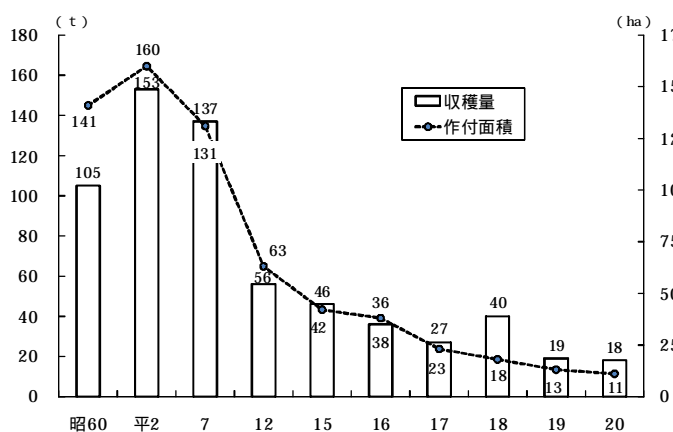
本県の平成 20 年産の作付面積は 11ha、収穫量は 18t

おたねにんじんの栽培は、享保元年(1715年)に会津藩により生産が奨励されて以来、会津地方における特産品として定着し、我が国では数少ない輸出農産物として産地が形成されてきました。

本県で生産されたものの多くが香港市場へ輸出されており、また、最近の健康ブーム、生薬ブームにより国内需要も掘り起こされていますが、作付面積は年々減少し、平成 20 年では 11ha となっています。

近年、安価な中国産おたねにんじんの市場参入等が見られますが、高品質製品は依然として需要が高いことから、より一層の生産性の向上及び本県育成品種「かいしゅうさん」の普及促進により高品質化を図っています。

本県の「おたねにんじん」生産の推移



		おたねにんじん		
		作付面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)
福島県	昭60	141	25	105
	平2	160	33	153
	7	131	26	137
	12	63	13	56
	15	42	8	46
	16	38	6	36
	17	23	6	27
	18	18	6	40
	19	13	3	19
	20	11	2	18

(資料：福島農政事務所「福島農林水産統計年報」
平成 17 年度以降は県園芸課調べ)

(7) 養蚕

本県の平成 21 年の上繭量は 48t

平成 21 年の上繭（くず繭を除いた繭）量は 48t となっています。

養蚕を取り巻く情勢として、

後継者不足による養蚕農家の高齢化

着物離れや長引く不況による国内和装需要の減退

養蚕農家と製糸・絹業提携支援システム構築の動き

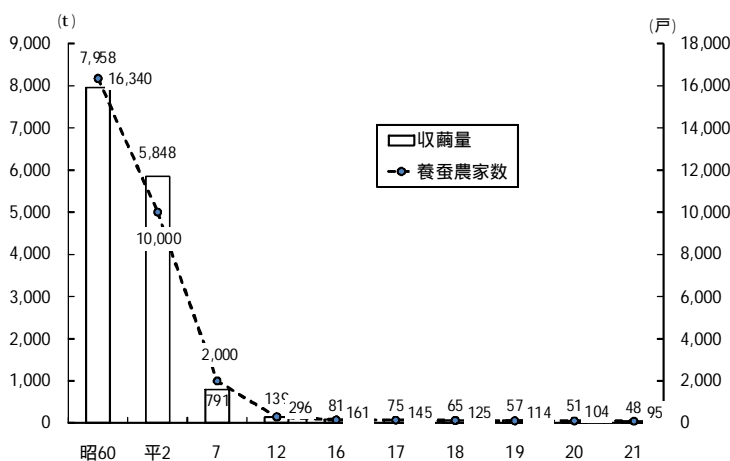
があげられます。

県では、養蚕農家の高品質な繭生産を推進するとともに、年間を通して養蚕と並行して栽培に取り組める作物導入による複合経営を促進しています。

また、関係 JA、製糸会社、真綿業者等との連携を密にして、製糸・絹業提携支援システムの構築に向けた支援を行っています。

さらに、試験研究機関において特許技術が開発された天蚕の生産安定に努めています。

本県の収繭量及び養蚕農家数の推移



		収繭量 (t)	養蚕農家数 (戸)
福島県	昭60	7,958	16,340
	平2	5,848	10,000
	7	791	2,000
	12	139	296
	16	81	161
	17	75	145
	18	65	125
	19	57	114
	20	51	104
	21	48	95

(県園芸課調べ)

収繭量とは、上繭の他、種繭、玉繭、くず繭を含む数量をいう。ただし、17年度以降は、上繭のみの数量

本県蚕糸業の全国的地位（上繭量）（平成 21 年）

順位	県名	収繭量 (t)	養蚕農家数 (戸)
1	群馬	139	373
2	福島	48	95
3	栃木	35	47
4	埼玉	25	79
5	茨城	12	31

順位は、収繭量を基準とした。(全農全国本部養蚕対策室調べ)

(8) 畜産

本県の平成 20 年の畜産部門の産出額は 535 億円

平成 20 年の畜産部門の産出額は、肉用牛の産出額が減少しましたが、豚及び鶏の産出額が増加したことなどにより、535 億円となっています。また、農業産出額に占める畜産の割合は 21.4%で、米、野菜に次いで 3 位となっています。

畜産を取り巻く情勢は、平成 3 年 4 月からの牛肉輸入自由化をはじめ、その後の乳製品の完全自由化、牛肉・豚肉等の関税引き下げ、EPA・FTA 交渉の進展により、輸入畜産物との競争が激化しています。

また、平成 18 年末から続いていた配合飼料価格の高騰などで生産費が上昇し、一段と畜産経営を圧迫しており、その後、ピーク時よりは下落したものの、高騰前の水準の約 1.3 倍であり、依然として厳しい状況にあります。

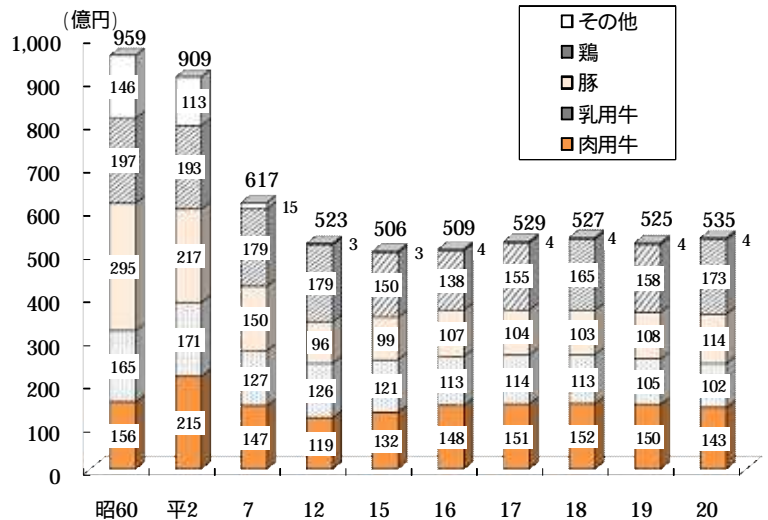
本県畜産経営の安定的な発展を図るためには、国際化に適切に対応できる経営感覚に優れた畜産経営体の確保が必要であり、認定農業者等の担い手畜産農家の育成を主眼として、低コスト生産や高品質化等による経営体質の強化、「福島牛」等のブランド化の促進などを積極的に展開しており、平成 19 年以降、「福島牛」、「川俣シャモ」及び「会津地鶏」が県ブランド認証産品に認証され、さらなる販路拡大に取り組んでいます。

特に平成 13 年 9 月の国内初の BSE の発生や、その後の食品の偽装表示問題等により安全・安心が問われ、生産から流通・消費にいたるまで大きな影響を受けたことから、トレーサビリティ制度等を活用し、食の安全・安心を確保するとともに、さらには、平成 22 年 4 月に宮崎県で口蹄疫の発生が確認されたことから、県内における発生を防止するため、消毒の徹底を図るなど、畜産物の生産流通体制の構築と安定した畜産経営の確立に取り組んでいます。

本県の畜産産出額の推移

(単位：億円、%)

	畜産計	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他
昭60	959 (100.0)	156 (16.3)	165 (17.2)	295 (30.8)	197 (20.5)	146 (15.2)
平2	909 (100.0)	215 (23.7)	171 (18.8)	217 (27.1)	193 (24.1)	113 (12.4)
7	617 (100.0)	147 (23.8)	127 (20.6)	150 (24.3)	179 (29.0)	15 (2.4)
12	523 (100.0)	119 (22.8)	126 (24.1)	96 (18.4)	179 (34.2)	3 (0.6)
15	506 (100.0)	132 (26.1)	121 (23.9)	99 (19.6)	150 (29.6)	3 (0.6)
16	509 (100.0)	148 (29.1)	113 (22.2)	107 (21.0)	138 (27.1)	4 (0.8)
17	529 (100.0)	151 (28.5)	114 (21.6)	104 (19.7)	155 (29.3)	4 (0.8)
18	527 (100.0)	152 (28.8)	113 (21.4)	103 (19.5)	165 (31.3)	4 (0.8)
19	525 (100.0)	150 (28.6)	105 (20.0)	108 (20.6)	158 (30.1)	4 (0.8)
20	535 (100.0)	143 (26.7)	102 (19.1)	114 (21.3)	173 (32.3)	4 (0.7)



() 内の数値は構成比を示す。

ラウンドのため合計値が合わないことがある。

その他には養蚕を含む。

(資料：農林水産省「生産農業所得統計」)

家畜飼養頭羽数の全国順位の推移

	昭60	平2	7	12	15	16	17	18	19	20	21
乳用牛	14	14	13	13	14	14	14	14	13	13	13
肉用牛	7	8	7	9	9	9	9	9	9	10	10
豚	8	10	12	16	16	15	-	17	18	18	18
採卵鶏	22	21	18	19	18	17	-	14	13	13	14
ブロイラー	8	15	23	23	22	19	19	-	21	21	21

各年 2 月 1 日現在

(資料：農林水産省「畜産統計」)

17 年はセンサス年のため、豚、採卵鶏の調査は未実施

ア 乳用牛

本県の平成 21 年の 1 戸当たりの飼養頭数は 30.3 頭

平成 21 年の乳用牛飼養戸数は前年に比べ 8.0%減の 590 戸、飼養頭数は 8.2%減の 1 万 7,900 頭となっています。また、1 戸当たりの飼養頭数は 30.3 頭となっています。本県でも規模拡大は進んできましたが、全国平均の 64.9 頭と比べて少ない状況となっています。

配合飼料価格が高騰している状況から、牛群検定の普及促進による経営改善や自給飼料の利用推進を図っています。

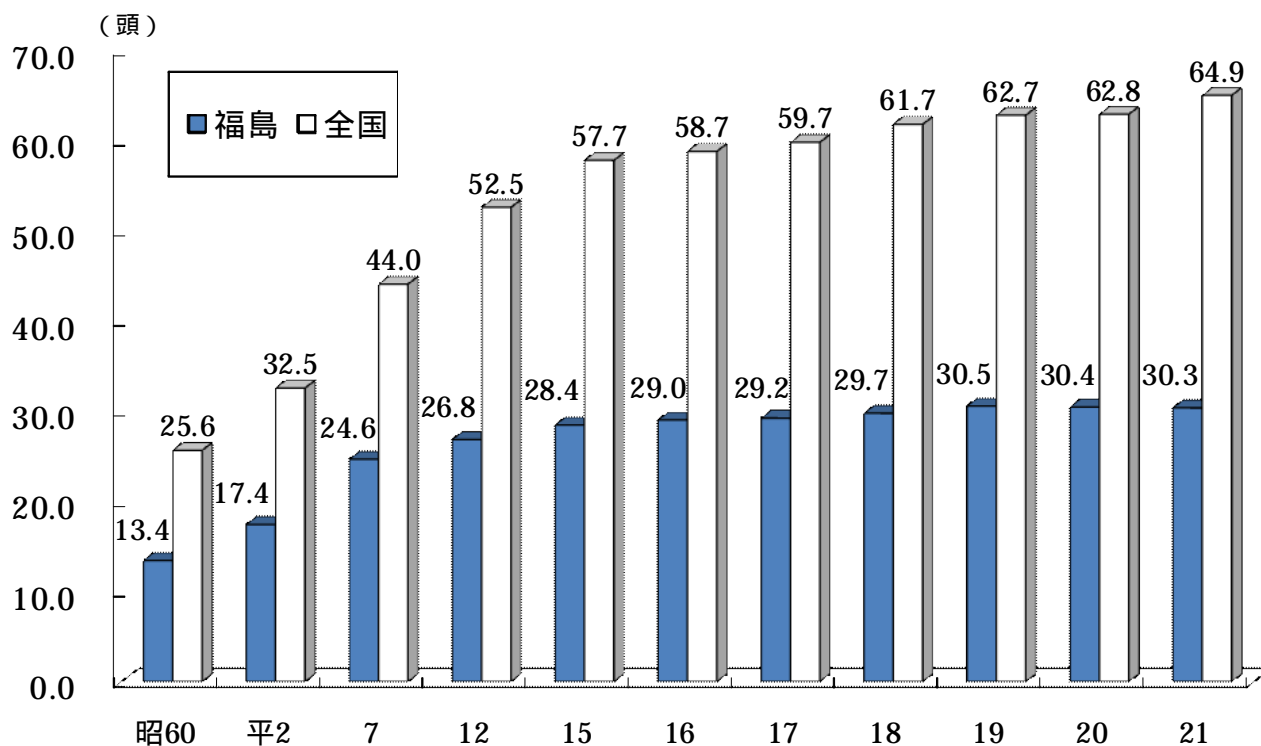
本県の乳用牛の年次別飼養動向

	昭60	平2	7	12	15	16	17	18	19	20	21
飼養戸数(戸)	2,910	2,080	1,280	920	810	777	737	711	679	641	590
対前年比(%)	94.8	94.5	89.5	94.8	96.2	95.9	94.9	96.5	95.5	94.4	92.0
飼養頭数(頭)	39,000	36,100	31,500	24,700	23,000	22,500	21,500	21,100	20,700	19,500	17,900
対前年比(%)	102.9	101.1	96.6	92.9	97.9	97.8	95.6	98.1	98.1	94.2	91.8
1戸当たり飼養頭数(頭)	13.4	17.4	24.6	26.8	28.4	29.0	29.2	29.7	30.5	30.4	30.3

戸数及び頭数は各年 2 月 1 日現在

(資料：農林水産省「畜産統計」)

本県及び全国の乳用牛 1 戸当たり飼養頭数の推移



イ 肉用牛〔 福島県 〕

本県の平成 21 年の 1 戸当たりの飼養頭数は 18.7 頭

平成 21 年の飼養戸数は前年と比べて 5.3%減の 4,480 戸、飼養頭数は 0.4%増の 8 万 3,700 頭となっています。

また、1 戸当たりの飼養頭数については、前年に比べて 1.1 頭増の 18.7 頭となっていますが、全国平均の 37.8 頭と比べて少ない状況となっています。

肉用子牛価格は、平成 7 年度以降、35 万円前後で取引されてきましたが、平成 13 年 9 月に発生した BSE の影響により取引価格が下落しました。平成 14 年 1 月以降、回復基調となり、平成 19 年は、「景東」、「登美貴」等の優良種雄牛の積極的活用等によって、51 万円前後で取引引きされていましたが、景気悪化に伴う牛肉の消費の低迷や飼料価格の高騰の影響により、平成 21 年は 37 万円前後まで下落しています。

肉用牛生産の安定的発展を図るため、長期的視点に立った種雄牛の造成等による肉用牛の改良に取り組むとともに、受精卵移植技術の活用等による低コスト生産や肥育技術の向上による高品質化を推進しています。

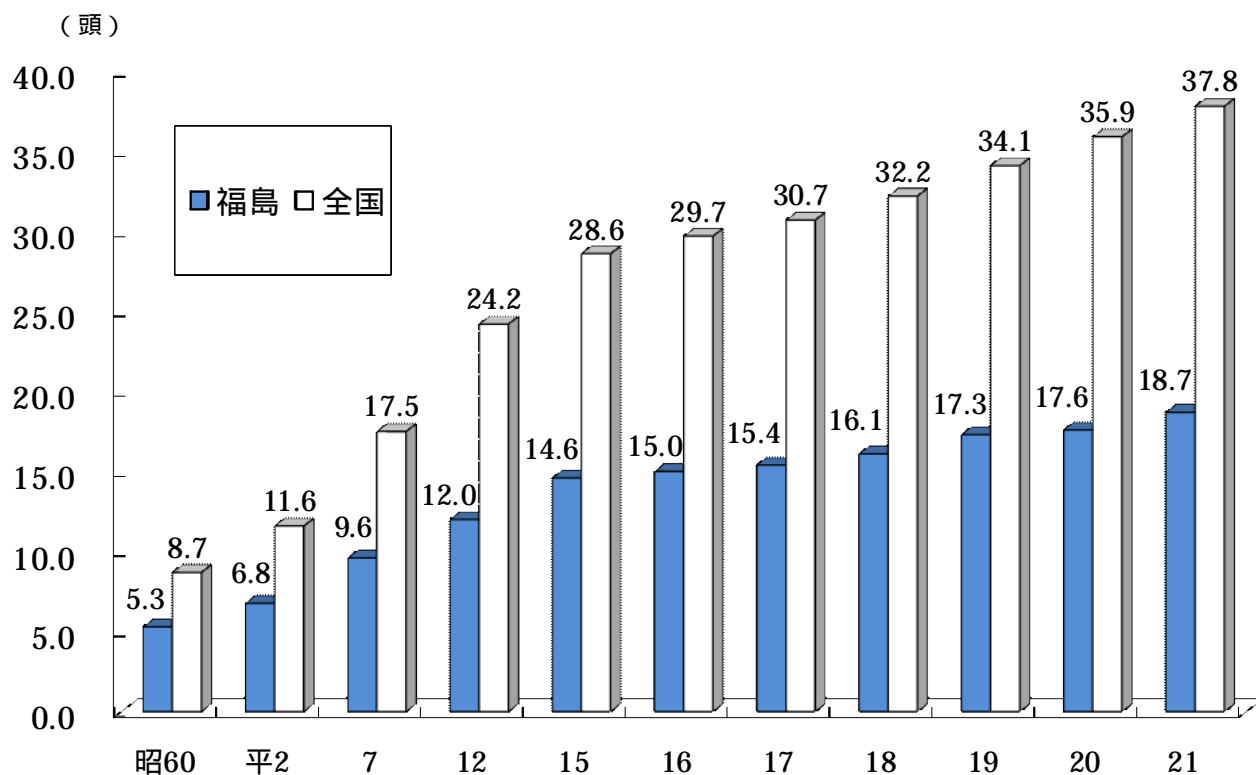
本県の肉用牛の年次別飼養動向

	昭60	平2	7	12	15	16	17	18	19	20	21
飼 養 戸 数 (戸)	17,600	15,000	10,900	7,260	6,140	5,730	5,340	4,920	4,830	4,730	4,480
対 前 年 比 (%)	97.8	96.2	92.4	91.8	94.2	93.3	95.5	92.1	98.2	97.9	94.7
飼 養 頭 数 (頭)	96,600	101,600	104,600	87,300	89,600	86,000	82,100	79,200	83,600	83,400	83,700
対 前 年 比 (%)	105.5	101.8	99.2	98.3	99.1	96.0	93.2	96.5	105.6	99.8	100.4
1 戸 当 た り 飼 養 頭 数 (頭)	5.5	6.8	9.6	12.0	14.6	15.0	15.4	16.1	17.3	17.6	18.7

戸数及び頭数は各年 2 月 1 日現在

(資料 : 農林水産省 「 畜産統計 」)

本県及び全国の肉用牛 1 戸当たり飼養頭数の推移



ウ 豚

本県の平成 21 年の 1 戸当たりの飼養頭数は 1473.5 頭

豚の飼養頭数は、昭和 63 年の 41 万 7,700 頭をピークとして減少傾向にあり、平成 21 年の飼養戸数は前年と比べて 6.2%減の 136 戸、飼養頭数は前年と同じ 20 万 400 頭となっています。

1 戸当たりの飼養頭数は 1,473.5 頭であり、全国の 1,436.7 頭を上回っています。小規模農家は廃業等により減少していますが、大中規模の農家は経営の合理化をめざし、一貫生産で規模拡大を図っていることから、飼養頭数全体に占める大規模農家の飼養割合は増加しています。

国際化に対応した豚肉の安定供給と養豚経営の維持発展のためには、豚肉の高品質化と低コスト生産が必要であることから、本県で造成したランドレース種系統豚「フクシマL2」やデュロック種「フクシマD桃太郎」の普及に努め、これらを活用した三元交雑用豚の生産基盤を強化し、養豚経営の安定を図っています。

また、「うつくしまエゴマ豚」等の高品質豚生産により、特徴ある豚肉づくりを推進しています。

本県の豚の年次別飼養動向

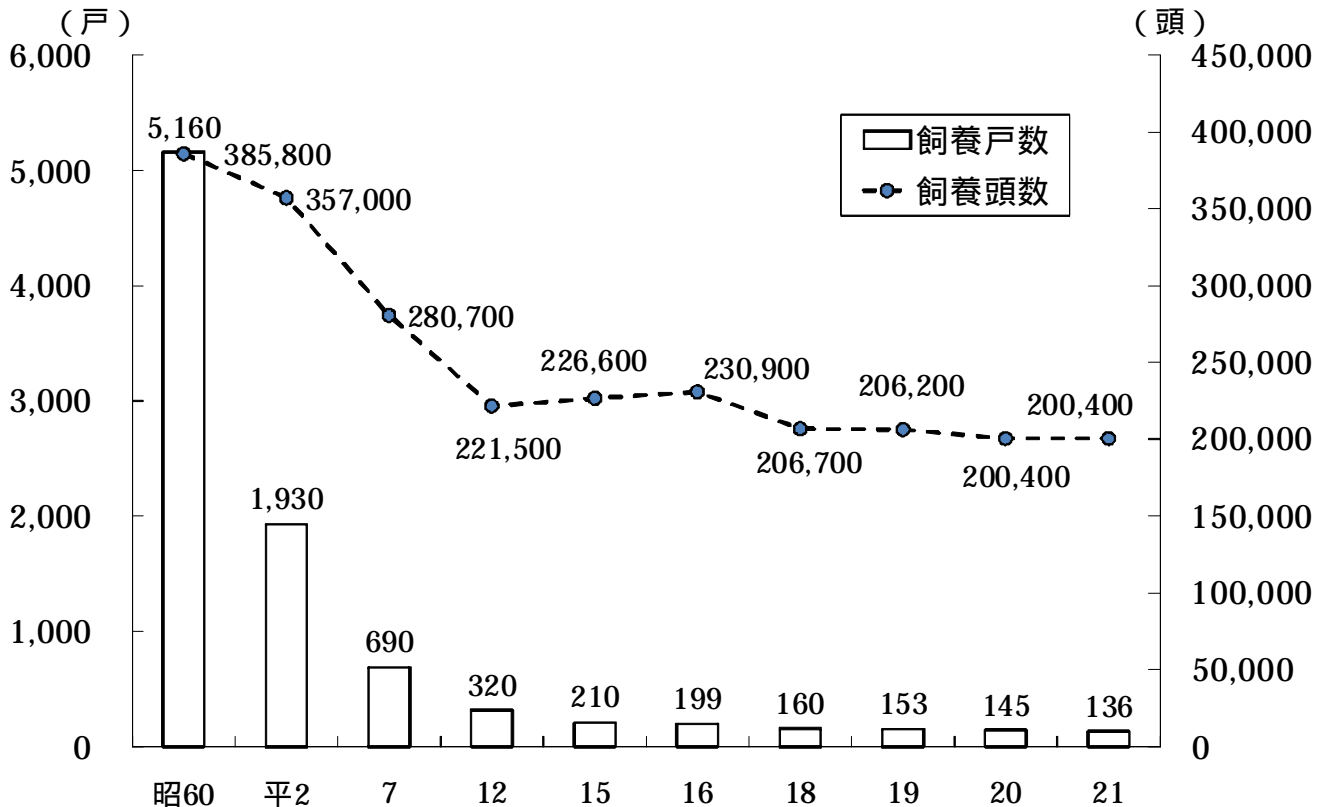
	昭60	平2	7	12	15	16	18	19	20	21
飼養戸数(戸)	5,160	1,930	690	320	210	199	160	153	145	136
対前年比(%)	97.8	77.8	84.1	88.9	91.3	94.8	80.4	95.6	94.8	93.8
飼養頭数(頭)	385,800	357,000	280,700	221,500	226,600	230,900	206,700	206,200	200,400	200,400
対前年比(%)	105.5	97.8	93.6	99.4	101.8	101.9	89.5	99.8	97.2	100.0
1戸当たり飼養頭数(頭)	74.8	185.0	406.8	692.2	1,079.0	1,160.3	1,291.3	1,347.7	1,382.1	1,437.5

戸数及び頭数は各年 2 月 1 日現在

(資料：農林水産省「畜産統計」)

17 年はセンサス年のため、調査は未実施

本県の豚・飼養戸数及び飼養頭数の推移



工 養鶏

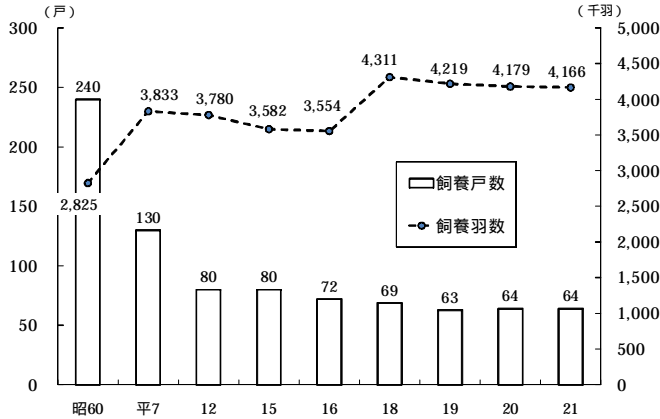
(ア) 採卵鶏

本県の平成 21 年の 1 戸当たり飼養羽数は 65.1 千羽

平成 21 年の成鶏めす飼養戸数は前年と同じ 64 戸、成鶏めす飼養羽数は前年と比べて 0.3%減の 416 万 6,000 羽となっています。

1 戸当たりの成鶏めす飼養羽数は 6 万 5,100 羽となっており、全国の 1 戸当たり平均飼養羽数 4 万 5,000 羽の約 1.4 倍の規模となっています。

本県の採卵鶏・飼養戸数及び飼養羽数の推移



	飼養戸数 (戸)	対前年比 (%)	飼養羽数 (千羽)	対前年比 (%)	1戸当たり飼養 羽数(羽)
昭60	240	96.0	2,825	104.7	592
平7	130	92.9	3,833	97.2	29,500
12	80	100.0	3,780	106.1	47,300
15	80	100.0	3,582	96.6	44,800
16	72	90.0	3,554	99.2	49,400
18	69	95.8	4,311	121.3	62,500
19	63	91.3	4,219	97.9	67,000
20	64	101.6	4,179	99.1	65,300
21	64	100.0	4,166	99.7	65,100

(資料：農林水産省「畜産統計」)

戸数及び羽数は各年 2 月 1 日現在

成鶏めす羽数 300 以上の経営のみを集計。10 年以降は成鶏めす 1,000 羽以上の経営のみを集計

17 年はセンサス年のため、調査は未実施

(イ) プロイラー

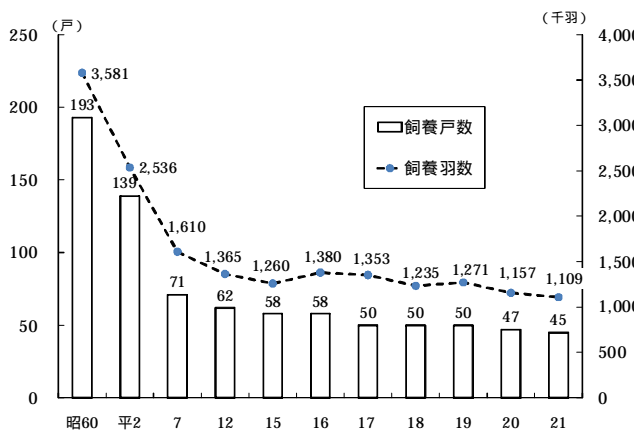
本県の平成 21 年の 1 戸当たり飼養羽数は 24,600 羽

平成 21 年のプロイラーの飼養戸数は前年と比べて 4.3%減の 45 戸、飼養羽数は 4.1%減の 1,109 千羽、1 戸当たりの飼養羽数は前年と同じ 24,600 羽となっています。

主産県による計画生産に歩調を合わせ、需要動向に対応した生産を行うとともに、生産農家のコスト低減等の合理化を推進しています。

また、本県固有の地鶏〔ふくしまイレブン〕「ふくしま赤しゃも(川俣シャモ)」や「会津地鶏」の生産拡大に取り組んでいます。

本県のプロイラー・飼養戸数及び飼養羽数の推移



	飼養戸数 (戸)	対前年比 (%)	飼養羽数 (千羽)	対前年比 (%)	1戸当たり飼養 羽数(羽)
昭60	193	92.3	3,581	99.1	18,554
平2	139	102.2	2,536	92.3	18,245
7	71	81.6	1,610	92.2	22,676
12	62	98.4	1,365	90.0	22,016
15	58	95.1	1,260	103.3	21,724
16	58	100.0	1,380	109.5	23,793
17	50	86.2	1,353	98.0	27,060
18	50	100.0	1,235	91.3	24,700
19	50	100.0	1,271	102.9	25,400
20	47	94.0	1,157	91.0	24,600
21	45	95.7	1,109	95.9	24,600

(資料：農林水産省「食鳥流通統計調査」)

戸数及び羽数は各年 2 月 1 日現在

オ 飼料作物

本県の平成 21 年の飼料作物の作付面積は 1 万 3,600ha

平成 21 年の飼料作物の作付面積は、前年と比べて 200ha (1.5%) 増の 1 万 3,600ha となっています。

作付面積のうち牧草類は全体の 75.7%、青刈りとうもろこしは 16.4%となっています。

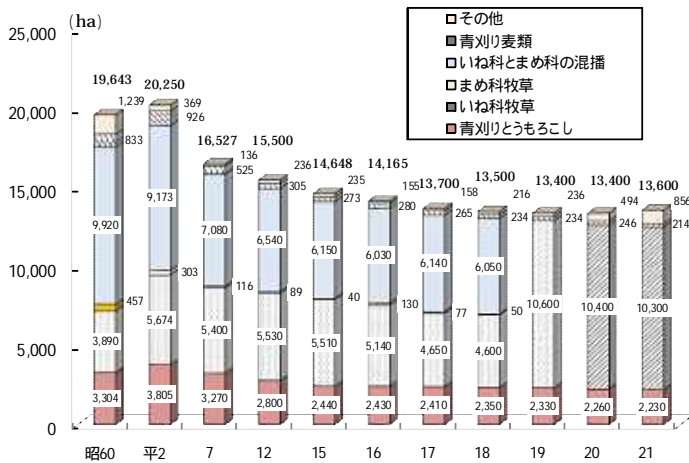
飼料作物の生産は、阿武隈地域広域開発等による牧草地及び飼料畑の造成・拡大並びに水田転作作物として作付けが増加してきましたが、近年は漸減傾向にあります。

平成 21 年度の転作飼料作物の作付面積は 3,990ha で、耕畜連携水田活用対策等の活用により、稲ホールクローブサイレージ (以下、稲 WCS) の作付面積は増加傾向にあり、平成 21 年度は 390ha となっています。

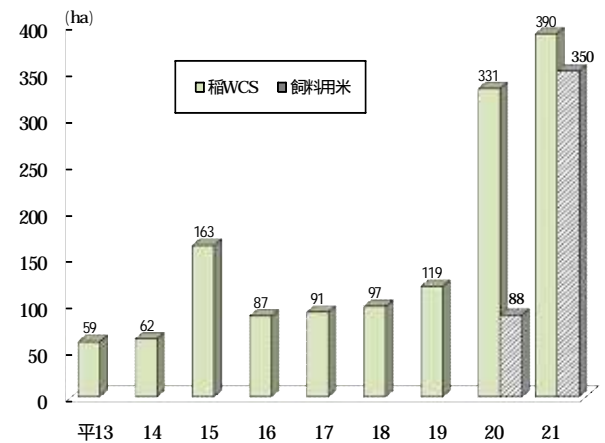
また、平成 20 年における生産費に占める飼料費の割合は中家畜で 76%、大家畜では 24~62%となっています。

安価な畜産物の供給と畜産経営の安定向上のため、中家畜では飼料効率の向上に努めるとともに、大家畜では自給粗飼料生産基盤の拡充や稲 WCS、飼料用米等の普及による良質自給飼料の増産等を推進しています。

本県の飼料作付面積の推移



本県の稲 WCS・飼料用米作付面積の推移

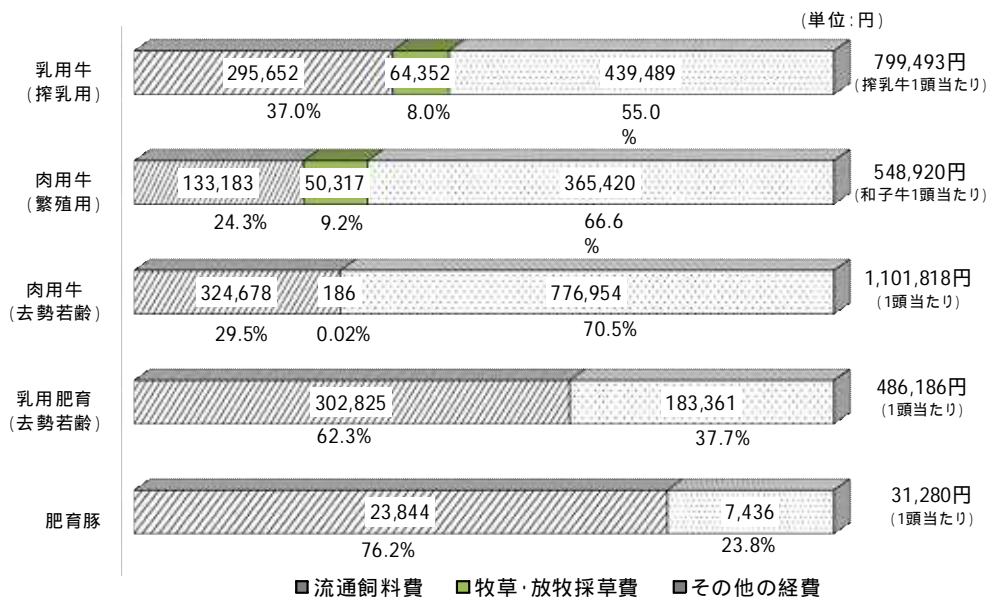


(資料：農林水産省「作物統計」)

19年以降はいね科、まめ科及び混播牧草の合計面積

(県水田畑作課・畜産課調べ)

本県の生産費 (1頭あたり) に占める飼料費の割合 (平成 20 年)



(資料：福島農政事務所「福島農林水産統計年報」)

カ 畜産物の流通について

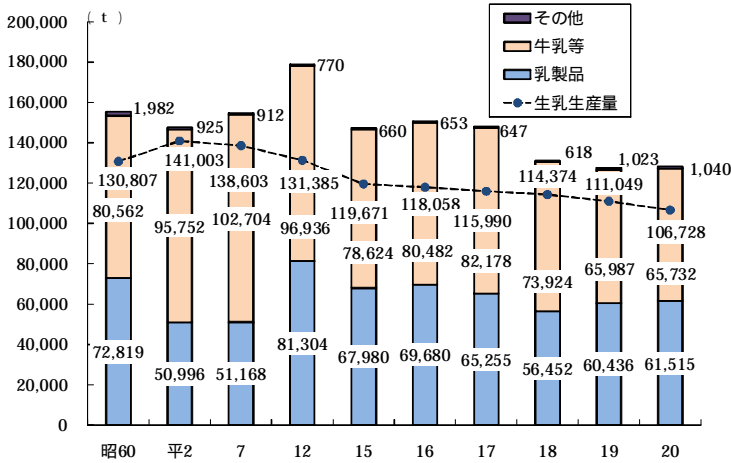
畜産物の流通は、取引過程において処理・加工が行われるため、他の農産物に比べて複雑なものとなっています。本県の畜産物流通の出荷先は、隣接する首都圏への出荷割合が高い傾向にあります。

(ア) 生乳

指定生乳生産者団体を通じた一元集荷多元販売の体制が確立しており、概ね全量がこの流通によって集荷販売されています。平成20年の生乳生産量は、飼養戸数減少に伴う飼養頭数の減少のため、前年に比べて3.9%減の10万6,728tとなっており、受託販売乳量用途別内訳は牛乳等仕向が51%、乳製品仕向等が48%となっています。

本県の生乳生産量と受託販売乳量用途別推移

(単位：t)



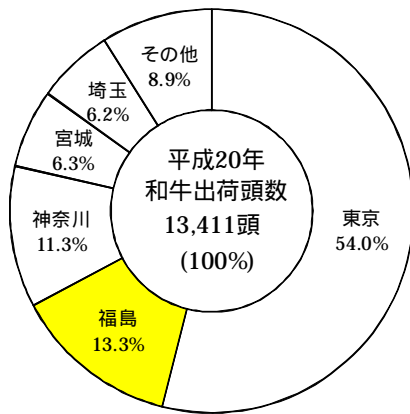
	生乳生産量	乳製品	牛乳等	その他
昭60	130,807	72,819	80,562	1,982
平2	141,003	50,996	95,752	925
7	138,603	51,168	102,704	912
12	131,385	81,304	96,936	770
15	119,671	67,980	78,624	660
16	118,058	69,680	80,482	653
17	115,990	65,255	82,178	647
18	114,374	56,452	73,924	618
19	111,049	60,436	65,987	1,023
20	106,728	61,515	65,732	1,040

(資料：福島農政事務所「福島農林水産統計年報」)

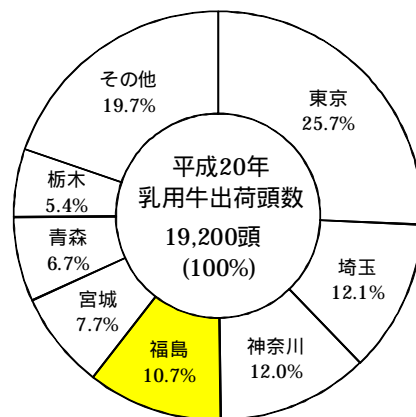
(イ) 食肉

本県の食肉においては、牛及び豚では生体のまま出荷される割合が高く、平成20年の県外への出荷割合は、肉用牛が87%、乳用牛が89%、豚が53%となっています。

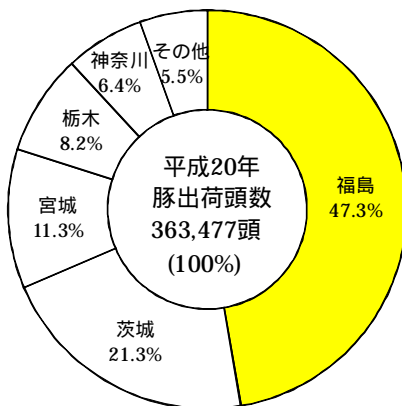
本県の肉用牛出荷先別構成比



本県の乳用牛出荷先別構成比



本県の肉豚出荷先別構成比



(資料：農林水産省「畜産物流通統計」)

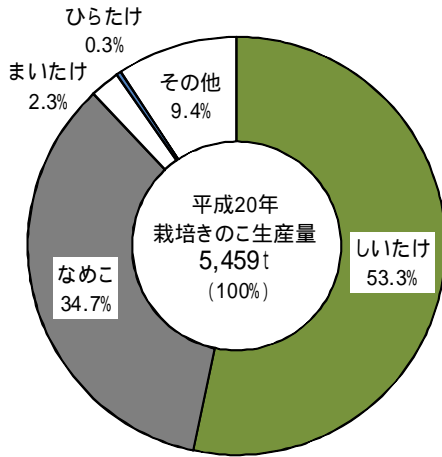
(9) 菌茸類

本県の平成20年の栽培きのこ生産量は5,459t

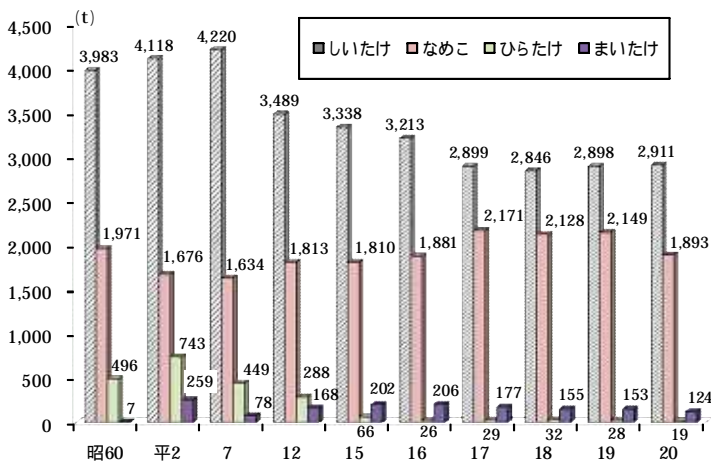
平成20年の栽培きのこ生産量は5,459tで、前年と比べて5%減少しています。

これを種類別にみると、全体の52%を占める生しいたけは微増の2,864tで、このうち、原木栽培は前年に比べて6%減の704t、菌床栽培は前年に比べて3%増の2,160tと、菌床栽培が生しいたけの75%を占めています。乾しいたけは前年に比べて9%減の47t、なめこ〔ふくしまイレブン〕は12%減の1,893t、ひらたけは31%減の19t、まいたけは19%減の124tとなっています。

平成20年本県の栽培きのこ類の生産量構成



本県の主な栽培きのこ類生産量の推移



(単位: t)

		しいたけ		なめこ	ひらたけ	まいたけ	
		計	生しいたけ				乾しいたけ
福島県	昭60	3,983	3,654	329	1,971	496	7
	平2	4,118	3,838	280	1,676	743	259
	7	4,220	3,999	221	1,634	449	78
	12	3,489	3,355	134	1,813	288	168
	15	3,338	3,263	75	1,810	66	202
	16	3,213	3,156	57	1,881	26	206
	17	2,899	2,825	74	2,171	29	177
	18	2,846	2,784	62	2,128	32	155
	19	2,898	2,847	51	2,149	28	153
	20	2,911	2,864	47	1,893	19	124
全国	平20	74,209	70,342	3,867	25,945	2,578	43,398
東北	平20	13,366	13,113	253	7,699	285	880

(資料: 林野庁「特用林産基礎資料」)

(10) 加工農産物

本県の加工農産物の産出額は6億円

平成20年の自家生産の加工農産物（主にあんぼ柿）の産出額は6億円で、前年度と変わらず横ばいで推移しています。

近年における核家族化の進展、共働き世帯の増加等を背景とした食生活の多様化や健康・安全志向の高まりなどの消費者ニーズにあった新製品の開発や流通面におけるマーケティング力の強化、情報システムの確立が必要とされています。

また、本県における農産物加工の実態は、比較的小規模なグループによる零細な取組みが多い状況にあり、農産物加工施設等の整備を推進するとともに、試験研究機関等との連携を図りながら、地域の特性を生かした郷土色豊かな農産物加工品の開発など地域産業6次化を推進し、付加価値の高い新たな地域産業の創造に努めています。

加工農産物の産出額の推移

(単位：億円)

	昭60	平2	7	12	15	16	17	18	19	20
加工農産物産出額	2	6	1	3	4	5	5	6	6	6

上記の対象は、農家個人が加工したもので、主にあんぼ柿

(資料：農林水産省「生産農業所得統計」)

(11) 農産物直売所・加工所

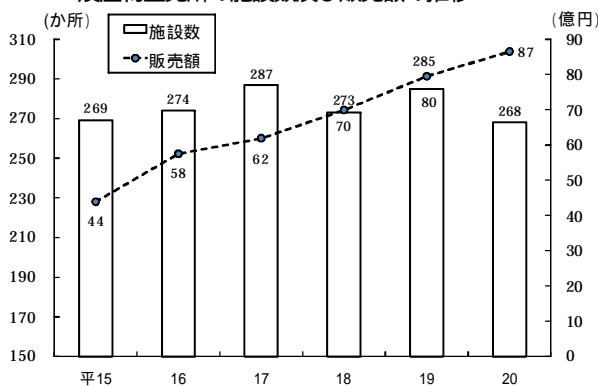
本県の平成20年度の直売所の設置数は268か所(販売額86.5億円)加工所の設置数は135か所(販売額21.4億円)

ア 農産物直売所

平成20年度の農産物直売所は268か所(平成21年4月1日現在)で、前年度と比較して17か所減少しています。

また、年間販売額の合計は86.5億円で、前年と比較して約7億円(9%)増加しています。

農産物直売所の施設数及び販売額の推移



	農産物直売所	
	施設数 (か所)	販売額 (億円)
平15	269	43.9
16	274	57.5
17	287	61.9
18	273	69.9
19	285	79.5
20	268	86.5

(県農産物安全流通課調べ)

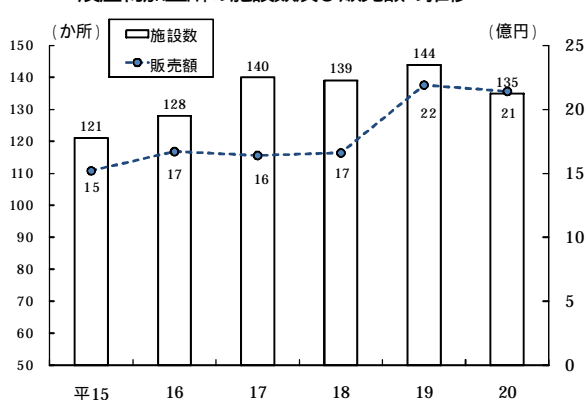
農産物直売所の対象は、個人経営を除いた農業者が主体的に運営している施設とし、有人直売所、青空市、インショップ、宅配販売、無人直売所等の数の合計

イ 農産加工施設

平成20年度の農産加工施設は135か所(平成21年4月1日現在)で、前年度と比較して9か所減少しています。

また、年間販売額は21.4億円であり、前年と比較して約4千万円(2%)減少しています。

農産物加工所の施設数及び販売額の推移



	農産物加工所	
	施設数 (か所)	販売額 (億円)
平15	121	15.2
16	128	16.7
17	140	16.4
18	139	16.6
19	144	21.9
20	135	21.4

(県農産物安全流通課調べ)

農産物加工所の対象は、個人経営を除いた農業者が主体的に運営している施設